リ 5
5373

門 リ 5
號 5373
卷

武家
叉擘

泰平年表

昭和九年十月八日 購求

限三百部禁市賣

忍屋隱士 謹輯 藏版

泰平年表凡例

東照宮　家康公御治世三年御壽七十五自天文十一年至元和二年迄　一ヨリ十七丁迄

台德公　秀忠公御治世十九年御壽五十四自天正十七年至寛永九年迄　十七ヨリ二十二迄

大猷公　家光公御治世廿九年御壽四十八自慶長九年至慶安四年迄　二十二ヨリ三十迄

嚴有公　家綱公御治世三十年御壽四十自寛永十八年至延宝八年迄　三十ヨリ三十七迄

常憲公　綱吉公御治世三十年御壽六十四自正保三年至宝永二年迄　三十八ヨリ四十八迄

文昭公　家宣公御治世四年御壽五十一自寛文二年至正德二年迄　四十八ヨリ五十三迄

有章公　家継公御治世四年御壽八自宝永六年至正德六年迄　五十四

有德公　吉宗公御治三十年御壽六十八自貞享元年至寛延四年迄　五十五ヨリ六十七迄

惇信公　家重公御治世十七年御壽五十一自正德元年至宝暦十一年迄　六十ヨリ七十迄

浚明公　家治公御治世廿七年御壽五十自元文二年至天明六年迄　七十ヨリ七十九迄

大御所公　家齊公御治世五十二年御壽萬萬歲自安永二年至天保八年御辞職迄　七十九ヨリ百九迄

泰平年表例云

此書起天文十一年至天保八年ニ廣敷凡三百年ニ同年表の大略ありそれ君臣の要を採るべき文を抜かるべし

時ハ事実の略を多く抜ふ綱目に要ハ対婚喪祭の礼儀凡ハ文武憲法の類附ていかゝ五の表紙もそなふ

とかこの畏ものあるも載ることゝ廣く他えも為るあるべきを勒勢の縁り時ものを所々旦ハ

三百余限られ様ニ形容く市井の愛賞をも極めん我ものの秘録とする

天保辛丑初春　忍屋隱士

附て云今泰憲法の表ふるべきよ

ふるべきハ家綱ハ家宣ハ家継ハ家重ハ家齊の其に加ふ或ハ紙ハ小減一を四ヶ年

いまハ一ヶ年ハ古ハ三年ハ或ハ連綿せ又ハ

老幼病病ふりて廢業する家おね

うべきその中ハ法禁を犯すの恐れあり

よりて年号三の大ち成まるべ

俗ハ年号の一助とし

叅平年表引用書目

次弟不同八本文二出所順也今不改

御年譜　創業記　列祖成蹟　逸史　國史　江戸記　太田家譜　聚樂行幸記　豊臣家譜　元寛日記　慶長年中記
慶長年録　當代年録　道春年譜　羅山文集　退私録稿　丙申記行　日光記行　野槌　常住院記　大德院記
称名寺由緒書　足利学校由緒書　圓光寺由緒書　惺窩行狀　山州名跡志　駿河記　公卿補任　梵舜日記　家忠日記　衆妙集
睦子又談　琉球史畧　本朝神祇考　光記　玉音抄　曽我家譜　鈴木家譜　島津家記　細川家譜　榊原家記
吉田家譜　中井家譜　御本日記　金地院日記　國師日記　元和年録　續年録　東武實録　嚴政録　光廣卿日光記行
紀州年録　松栄記事　宝貫事畧　日光山旧記　同御縁起　寛永江戸圖　御制法　君臣言行録　大酽公畧畧記　葉室家數
寛永行幸記　三雲成貞家譜　長崎旧記　諸家本寺帳　寛永御示諭旧記　孔子堂旧記　春齋畧譜　弘文院家記　鵞峯譜畧
國史館日録　鳳岡年譜　鳳岡全集　正保日記　正保事録　以貴小傳　北條系譜　宝旧記　會津世稿　土津霊神言行録
見称崇廟記　視聽日録　坂下池院日記　寛明日記　御當家令条　仰景録　慶賀要録　龜岡見旧記　德山家記　桑山家記
三雲家記　永井尚庸家記　万石記　貞禄日記　吉良日記　宝德日記　越前光長家記　憲廟實録　貞享諸家書
延宝江戸切繪圖　昔々物語　湯原日記　常山文義公行實　遺老物語　水野勝長家譜　細井廣澤家帳　土岐家記　柳澤保愛記
仕官格義　續紹運録　蕃山實録　大鳴義近家譜　新令解　享保録　同續編　同通鑑　同遺事　同成典　水府家記
加州家記　庶物類纂　官中秘策　官中要録　文露叢　玉露叢　萩生家譜　木下寅亮家譜　服部保廣家譜
室直清家譜　下田日記　伊勢貞丈家記　小笠原持廣家記　憲法部類　白石遺文　折焚柴　仲書　兼山麗澤秘策
御書物方日記　蜷川家記　奈佐勝英家譜　仰高録　春の御船　多紀安元家記　延寛宝朋日記　日光御社参記　小人頭旧記
安永寛享伝聞記　小笠原忠德家記　宗義功家記　大村家記　松浦家記　環海異聞　鎖國論　本庄邦家記　近藤守重私記　御觸書　天保日記

叅平年表要目素引

い　う　え　お　か　き　く　け　こ　さ　し　す　せ　そ　た　ち　つ　て　と　な　に　ぬ　ね　の　は　ひ　ふ　へ　ほ　ま　み　む　め　も　や　ゆ　よ　ら　り　る　れ　ろ　わ　を

あ
い
う
え
お
か
き
く
け
こ
さ
し
す
せ
そ
た
ち
つ
て
と
な
に
ぬ
ね
の
は
ひ
ふ
へ
ほ
ま
み
む
め
も
や
ゆ
よ
ら
り
る
れ
ろ
わ

泰平年表

一東照宮御世　東武　忍屋隱士謹輯

天皇二十七代世良田次郎三郎清康君の嫡男にして初名仙千代天文四年十二月廿日清康公逝去の後四名拔加冠ハ右良
左衛門尉廣忠と称し初名仙千代天文十年十二月廿六日の夜於三河國岡崎城に誕生ス母君ハ水野藤九郎忠政の女
文十年二月廿六日夜於三河國岡崎城　廣忠様の御誕生ス　母君ハ水野藤九郎忠政の女
相模守　其節の事ハ　政家　猶又拾八歳の時延徳元年右ハ祝の句と申伝ハ
紀特人　其君様の名可事　竹千代様と申上ハ別れ名拔の儀に社名を出ル者中伝の右ハ連宮ハ
舎の文書現在須載仕今ハ不相仕のこと有り　竹千代様と申上ハ別れ名拔の儀に社名を出ル者中伝の右ハ連宮ハ
廣忠政道軒と號し年号ハ長十六年二月廿三日終大納言
三河州廣忠の孫に当ル　廣忠政二女母堂ハ大河内
堂ヶ島へ放逐して四郎朝倉久松佐渡守俊勝へ再縁　永禄二年三月尾張国
古屋の郎ハ　入道ハ刑部卿より供奉仕る　渡し　義元ハ
廿九日於伏見逝去　五月小豆川信濃守と称し　義元の嫡男ハ母ハ水野左京の大夫
忠政女　於大の方後信西院殿と称

天文　十一年十二月廿六日三河國田原城に誕生

墓目ニ正川安長ヲ清長ト
ハ筑刀 酒井雅楽ハ正親ハ初名所千代君 天文 十六年今川義元の居城駿府へ至
らせなん途中織田家に奪ハるとさせなん尾張熱田ハ五程 天文 十八年十一
月九日尾別ヶ三別へ 岡崎氏月又駿別義元の弟ハ到せなん 天文 廿三年
ハ還百初 弘治 二年正月十五日駿府ハ於て元被義元首被を加元第ヶ世
七次第三第元信と下者 此時徳川或ハ世書ニハ称ヶ云 弘治 三年の春義人元康とハ改名
年今川治部大輔書女実ハ関に刑部ハ輔氏廣ヶ娘 築山殿と称ス天正七年八月廿九日殺ヲ害遠
西光院後葬を別渓和尚来院 を迎へハ室と為給ハ 永禄 元年三別ハ 八幡宮を寄給ハ出ヶて
給ハ日向ヶ成撃せらる是ハ初陣なり 永禄 二年三月六日岩倉城第三第
信康是生 此ハ今川氏滅亡後天正七年九月十五日逝遠勝寺院後葬 永禄 三年三月十日義元の後八月廿三日岩倉城
正三年八月廿六日第三第信康後称加納ハ出家永二年八月廿七日逝遠徳院 月年義元対死の後八月廿三日岩倉城
ヶ岡崎 永禄 七年織田信長と和親ヶ今川氏ヶ好を絶ヶ 永禄 八年二月
源家ハ代の軍書ハ十八冊阿部善八第正勝家ハ為として書写せらる 永禄 六

年の秋家康と改 永禄 七年三別東西ハ子ヶ属ヶ 永禄 八年三月賀茂郡ハ出家ヶ天正十一年
七月小豪氏ハ家文禄三年春駿遠国寧ハ輝政ヶ来二十年
二月ハ逝遠良院後葬 永禄 九年十二月廿五日従又信下三河ヶ
家ハ是ヶ世良田ヶ改称 元亀 元年安寺
今年徳川ヶ岡崎ヶ改称ヶ
四子ヶ属ヶ 元亀 元年正月遠別渓松城ヶ移 元亀 二年正月廿日従又信上同十一日
侍従 天正 二年正月廿日正又信下二月八日秀康ヶ生 秀康ハ九男ヶ三河ヶ出ハ母ハ氏家ヶ女ヶ子
十月十日対馬ヶ正八年二月廿六日従三位参議十年七月廿六日 称羽柴氏十八年三月徳川ヶ従ヶ 永禄 九年
十二年星ハ月八日逝遠善院ヶ葬 ヶ福井浄光院後改浄光院後葬 天正 又年十二月十日 従ハ信下月
廿九日右近衛権少将 天正 七年ハ月七日竹千代君ハ誕生 長丸君 秀忠公 許ハ未出生 天正 八年正
月廿日従ハ信上同年九月忠吉ヶ生 此母西ヶ氏松平下野ヶ女ヶ 従三位左中将十二年三月廿日逝徳性寺院後葬
同年十月十日ハ家康ヶ上洛 楽ヶ楽ヶ 久しき宮の事 同年月日振姫君生 此母完ヶ氏文禄ハ年二月蒲生
月再源家ハ徳川ヶ長晩三年八月廿九日於紀ハ和ヶ山逝 忠郷ヶ秀行家元和元年十
遠正清院後葬 ヶ念戒光院ヶ後藤氏後葬ヶ遠正清院 天正 十年三別駿別一条ハ頂ヶ敬之遠を合三四
天正 十一年九月十日信吉君生 万千代君称武田氏ハ完ヶ氏女ヶ七年十二月対馬守ヶ 徳川ヶ
十月廿日正信下月十日左を清洲中将ヶ是年甲信ヶ 八年九月十一日逝遠清院後葬 瓜連清福寺 ハ年
十二年二月廿七日参議

従二位或云十五年正月八日 同年正月十五日小牧山陣 天正十三年十月正月相模中納言同年十月晩
正三位同年十二月正月幕府城ヨリ移徙 天正十七年五月十日豊臣秀吉妹[illegible]
[illegible]入樂山聚楽第 同十八年正月十日聚楽亭ニ饗宴 秀吉妹[illegible]
称南明院殿 葬京東福寺 同年十月[illegible]上洛大坂ヲ[illegible]
西和解ヲ[illegible] 天正十八年正月十日左ヲ従大納言左ヲ従[illegible]
此年京ニ大仏殿造立 天正十六年正月十日左ヲ従大納言正三位 二月幕府ノ出納修理 同年正月十五日聚楽亭ニ
行幸ノ時ノ松祝 [illegible]ノ松ノ景毎ニ[illegible]
夏日侍従行幸聚楽亭ニ同年正月吹挙ノ出歌 [illegible]
祝ノ和歌ヲ[illegible]ノ出歌ヲ載ス 同年正月吹挙ノ出歌
あろ城 [illegible] 紀ヨリ[illegible] 天正十七年正月彼岸ノ[illegible] 二月幕ヲ二条大納言秀吉ニ[illegible]
秀忠ニ出御堂西郷局邸ニ遊ス 西郷局ハ[illegible]
幕府中[illegible] 同年七月[illegible] 天正十八
年正月十日ハ[illegible]所幕府ノ[illegible]ニ自二月至七月小田原征伐[illegible]ヲ二位大納言ヲ
称シ[illegible]ノ上[illegible]ヲ[illegible]ノ内九万石ヲ[illegible]ノ濱[illegible]ノ地[illegible]
場自須賀来世中京法[illegible]ノ地一万石ヲ[illegible]ノ地ヲ[illegible] 後世[illegible]
今成[illegible]ノ[illegible] 同年

江戸城移徙

八月彼日武蔵国江戸城ヨリ移徙 江戸城ノ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ[illegible]ノ[illegible]
[illegible]ノ

屋小田出陳芝太閤朝鮮征伐に係て之世年に城小姿を開て大要六組の宅地を設らる是を要所と云

文祿二年 處士爰京肅小命して於御茶貞紀改要を淡せる是 御茶清淡の史実と見え

始る 文祿三年 始めて子位小橋を架らる是を子位の大橋と云 同年二月廿九日豊臣太閤

吉野花見の時民首の和歌を詠ぜ人 花の盛ひ 枝ぬる花の名所をわかつて咲き吉野の春雨の花

湖の上の花 花のなごりの春の夜もすがらの月 花咲きそめし時の心 花の代々の子と世の花もう

うゝ南一くもすめる秋風 花のいとひ 花の代々の子と世の花もう 花の盛りは限りあるし 北山

道 春の豊臣秀吉小文祿三年二月秀吉発大坂為見花篇 秀吉後の余自筆 和歌の五首

大花見 利家改宗を改宗を改宗 法下全宗小法眼紹巴小又有弟 とあるは人の方今啓蒙記一冊

是二月廿九日の日之春日詠和歌 花の盛ひ 花の代々の子と世の花もう 北山

二首を載せ 花の盛ひ 花の代々の子と世の花もう 吉野山

ちらふかゝるをもる 花の盛ひ 花の代々の子と世の花もう 吉野山

風吹ぬよの花のさうふ 同年三月吉野山へ出で山を為て花於大徳院出特作とら擬 合文七

言律一首是利学校之要執筆四顧四へ 大徳大徳院伝持宿雅法下れ徳の寺へ 吳中法光

之要筆もれ作る和韻を書る 峯分百信 峯念張令耶安 峯中壽多 現聖亦諸 峯門聚的

風拂塵者 正俳峯 司北巡南巡神周 峯上後芳 猶鬼共宿

峯是如来 則 巡之 出 顧四の裏へ 大徳院 現存 同年

十二月 禮紀四義を清水秀賢小贈 月日 松平代君生 出羽山田氏徳 松平家安長

第四月十二日逝 徳松寺院夜

貴重書

葬之及其法号心寺　文保　元年山千代君生　仏母志水氏年号文保元年二月七日逝　慶長　元年十二月改元　天正十一年正月九日逝　同年七月足利学校を伯耆の処の聖像寺に宋版の経疏を移す　天正十一年正月伊予城を攻落す　同年七月足利学校を再興し遷し納る　秀次自害の時に自殺せしめ給ふ　秀吉公の関白に成り給ふ　天正十一年正月伊予城を攻落す　天正十一年正月伊予城を攻落す　天正十一年正月伊予城を攻落す

日十三年八月廿五日付尾張藩に達す　此年阿蘭陀法尼利亜人京別墺
安政三年五月七日遊歩許可を願出中ち長崎奉行尾張藩等へ達中ち
浦賀に来航して初て通商を　平戸藩に於て安政元年和蘭商館を
長崎に移す　今年永井玄蕃頭を長崎に遣す
浦賀に来航し千余艘と云又出来て船と称し我邦にも外国に
渡海し商を通せしが唐山阿蘭陀の外に西洋諸国の船舶
細川藩に於て礼儀式のみ上下問せらる　長州藩より献する所の名産を出陽に陽る　同年九月
関東へ下らせらるとて三の丸を出る　出陽に於て家臣邑加氏死則宮村の祠を献
感ずる所あり　を多く陽に招を分ち　長月冥が系に陳所に於て出藩米の出張所の一首
を献す　常信光院に陽る　同付足利学校三要位を白線米地の内へ出張あて学の一位を定
ら上一指相を陽る　同年十月　御所に於て安西ち温収の出稿を光長に三要に陽る　長崎出の
同年十月　御所に於て安西ち温収の出稿を光長に三要に陽る　長崎出の
我尚佑へ　三方郡の法式を下問せる　故実を採除せらる　長崎奉行より
へきに付き　長崎奉行より勅使
出張せらるる　長崎奉行
陽る　長崎出の法式　六年正月廿五日長崎奉行に陽る　同年
陽る　長崎出の法式　三月二日大坂より伊丹城へ出張　同年九月伊丹に学校を設

らる　長崎奉行
毎月十八日神楽を奉して長崎に出る　同年元和元年六月十八日
依法に中上来り　長崎奉行
何日も紀州家令に和歌山に
幕　その禁帯を社を建て
是に於て儀
と形さう　禁の理由料の地形に
を出行の賤　剣業記に
名を沿て
芸藩令限
芸藩令限　七年正月六日従一位同月十九日に上洛　十月十日
遣官同年三月七日伊丹に於て教宣を出　長崎奉行
七年正月廿三日敬仁十年正月十日逝
遣南部院宮紀州藩中に係ち　同年五月朔日四条内長月の二条の亭に薨　同年六月十日
上洛の正純を社中南部東大寺の秘蔵を開て芸家奏伝を授せらる　勅使八勅使ち衣天皇宸筆
機衣中兵部卿　法式時代の軍家の例に
剣業記に
沿革の文庫を建て礼令沿文庫の中に文庫の書を収蔵せらる　沿革出張の

伏見天皇 正安二年

史書ホ以元亨以後世月年十月二百江戸へ　還御　御堂関白殿及
逝去ホ関ヒ　月年十二月世六百九十治　十二月廿
二日世五元　一組　後醍醐　初て伏見城の要を勤む　伏見三年寅と云年　月
日ホ記ス　月年　月十九日　大内義弘　一業板倉伊賀守
時代　月十年　月十九日　大内義弘　一隊の士と率て伏見城を守る事
亭ホ金沢の文庫と称さ　書庫迷　当代年孫ホ六月十日出発　学校　和尚
家　武の時分　金沢の納ホ出物　ヒ　ホ　馬　ホ　子　ホ　子　ホ　子

也上洛 二月十九日家光
城へ入御 同年三月東海を同牒せらる 業光の跋刻
業范跋行記 同江戸七月征夷大将軍宣下 辞同十六日
右廟拝軍 宣下あり 是より 大御所秀忠と称し 第三代同年江戸周易を改版せらる 是年二条城
城に於て傷者林又三郎伝傷を右出さる 二条城の西の徒者あり
以 大御所家康公 [illegible] 家光の [illegible] 同氏文集 [illegible] 夫人の樂府と
抵戻せ [illegible] 光氏 [illegible] 武代 [illegible] 作ける [illegible]
[illegible] 東坡詩 [illegible] 朱文公 [illegible] 作せ [illegible] 乙巳の年之けり 同年九月十四日伏見 出発 [illegible] 江戸へ 還御 [illegible] 十年三月 [illegible] 江戸城改築 沈田耀護 [illegible]
渉肥幸長 [illegible] 命せられ築城 [illegible] 堂 [illegible] 家康に
是 禁裏 [illegible] 同年七月七書を改板せらる 同九月廿六日江戸城成 同月清涼家久流球
[illegible] 江戸城へ 還御 [illegible] 十一年正月元日市正天生 [illegible] 陸奥 [illegible] 十八年
十三月十日道灌一昭院及 同月江戸城を
築後別廟伊華陽院 右廟へ出御 法名を命せられ後府城を築しめらる

[illegible] 十四年正月尾張清須に 入御 築地を監しめ 二月清須家久流球を征せ 七月流球

郭内に於て宅地を賜る 同年二月十六日細川忠利に於て教示 [illegible] 家光 [illegible]
[illegible] 細川家譜 [illegible] 家光 [illegible] 十一年二月十六日
[illegible] 家光 [illegible] 十二年 [illegible]
[illegible] 同年二月廿八日後府城に於て天海僧正校道義と
清涼 [illegible] 家光義智胡錦の二使を接す 同年七月二日後府城へ出御 同年十月江戸
出発 [illegible] 十四日江戸西丸へ 入御 同年十二月十二日後府城へ 還御 同月十二日後府城へ [illegible] 年伝医[illegible]命
院宗巴出海 [illegible] 同年本年 [illegible] 月を勅也
[illegible] 十二年二月十日 [illegible]
[illegible] 日夜顧問出庫 [illegible] 神祖 [illegible] 年 [illegible] 寓 [illegible]
[illegible] 同年八月北敵山の制法七ヶ条出定あり 同月東も親智院に命じて経義の
[illegible] 同年より 東海を細川忠興に於て [illegible] 同月十月江戸城竣成
[illegible] 十四年六月尾張清須家久流球を征せ 七月流球

紀毛人貢献

琉球来朝

中山王尚寧薩摩ヲ来る薩州の使ヲ以テ後府ヲ知リ琉球王ヲ以テ詐偽せんことヲ出羽宮あり
琉球王ヲ称ス久ヲ偽ふヲ下章ヲ授ル八月南蛮出阿葉陀人貢物ヲ後府ヲ勅ヲ書ヲ彼国王
ヲ偽ヲて毎年犯ヲ平戸ヲ商船交易ヲ乞き有ヲ命せる阿葉陀人の入貢ヲ拒る十二
月清洋船ヲ使ヲ後府ヲ平戸ヲ勅して琉球王ヲ偽ふことヲ禁ヲ後ヲ二別ヲ彩宮ヲ偽り
水戸ヲ彩房ヲ偽ふ 寛永 十六年二月沈田輝政福岡ヲ則ち薩摩ヲ長崎ヲ法ヲ令
して尾別清須の城ヲ名古屋ヲ移し彩ヲ城ヲ築て義直ヲ偽ふ月二月勅使後府ヲ来
て此年懐位のヲヲ若く八月清洋船ヲ琉球の中山王ヲ携り後府ヲ知り詐ヲ計ヲ琉球来
聘の船あり月年九月彩宮治要一紀源全の傍始ヲ令し総持院ヲ於て僧写せしめる毛
年侍医若田宗安父宗ヲ捕り送物社氏ヲ典寿効良法ヲ勅ヲ月年十月廿日沈宮城へ 入所
月廿又日後府へ 還所 寛永 十六年正月廿二日大政ヲ法ヲ菓相の山紋ヲ偽ふの怒有ると
ヲ其出辞退ヲ乞ヲ出洋客なし月廿二日光祖彩田大狀ヲ義ヲ初ヲ法ヲ府将軍渉又
廃ヲ公ヲ大納ヲ官ヲ贈ら月年二月尾別名古屋城ヲ巡ヲ有り史より出ヲ出ヲ廿二条内

月廿七日 清洋船院 後ヲ出ヲ ヲ
後府へ 還所 八月廿日自刃 ヲ 月廿八日豊臣右府秀頼大坂ヲ入御二条亭へ登営 御対教月年四月廿八日
十九日道春ヲて建武式目法令ヲ清ヲ後ヲ 月年九月十六日吉田神社院焼亡 菓ヲ菓ヲ勅ヲ月
乗に如ヲ大ヲ家ヲ後代ヲ方ヲ法式ヲ年ヲ和ヲと載ヲ是月ヲ和式目ヲ以ヲ不来建武式目及び 月
要ヲ式ヲ目ヲ群書治要月令政要流日ヲ紀の教ヲ法ヲ伝ヲ講究ヲ是三十年ヲ法令頒布せらる名の様ヲなるへし 月
廿日南蛮世界ヲ屏風 清笑あり 異域ヲこの出沙法ヲ及ヲ是要ヲ易の日記ヲ月ヲ一様ヲ是ヲ和ヲ浦塞ヲ
宋月七年に太泥ヲ十年ヲ遅ヲ来た松田源月十七年ヲ阿葉陀月十七年に亜馬港 月廿二日ヲ指法ヲ月ヲ
彩伊西把ヲ亜月十年に漢入利亜ヲの中ヲ出ヲ者り物ヲ捧ヲ人ヲ到ヲ有り守ヲ又者り紀ヲ
業行の出雑法あり 吉田ヲ漢ヲ言葉法ヲ氏ヲ氏ヲ出ヲ入貢ヲ者ヲの出ヲ出ヲ数ヲ出ヲ
ヲ者柏木法ヲ法ヲ名ヲ出ヲ月ヲ十日ヲ八ヲ五ヲ月ヲ出ヲ月ヲ出ヲ 法ヲ名ヲ感ヲ美ヲ出ヲ云 月十月彩月ヲの厳遣
智ヲ菓ヲ船ヲ屏ヲ貿ヲ法ヲ船ヲ異ヲ屏ヲ屏風一双ヲ勅ヲて二月天台西楽院送物ヲ一大ヲ六十奏ヲ
坊ヲ三ヲ勅ヲて六月画工狩ヲ能ヲ百ヲて内裏ヲ奏月ヲ宮大社ヲ彩遣の歩厳ヲ画ヲ作ヲ出ヲ則
画工ヲ船ヲ和ヲと出ヲて中ヲと出月十六日江戸 入御月十月上旬ヲ出世良田近々古ヲ出ヲ再ヲ彩田金ヲの禁
ヲ一条ヲ以ヲ遠ヲ三ヲ三ヲと大光院と号義重義貞ヲ朝臣の回ヲ跡ヲ月ヲ廃ヲ々の出ヲ月ヲ彩ヲ
ヲ蕉ヲ以ヲ出遠ヲ三ヲ月ヲ月後府ヲ 還御月十七日清金莊光院ヲ尋に依て猶金ヲ代ヲ将軍ヲ御九

代の四紀を考ふるに上代保暦間記所載のごとし則千書 出雲あるべきの有出仕十九日病ふ及て後食
荘園院保暦間記抄系 神祇ふ於て是を讀む是年 神孫 大歓を南て八業祝の後ふ和ず
を揮筆せらる 巻長 十七年二月 神祇ふ於て東遊童蒙記是月を考へるべし廿日ふ運ずあり
月六月十日修皇ふ般若院院日記を勅を為て是を讀ぬ十日為去と道を讀ぬ
中ト猶ト湯武放伐の論あり 此對問荘山文集に我又退 私源抄ふ 神君の由ふ於て天下至大者
至法者紀といふ事を考へ校せ此の出ふ出ると御宇下時書一元起ふ
是を云ふ中さ抄ふ云云天下の名云ふりと作らまに月六月 此軍家後府ふ 入御あり 大神所様へ角張
しとまく書一元起 宋版刷本今昌年を問要ふ西
三方為長彼年作を世らる月六月廿六日道春へ曾子子貢へ一貫の事紙下問せる赤湯武の論あり
月七月十八日宋宗遣物として黄氏日抄三十一巻を献を 海日遅所南宗船紙子 雖我紙較ふ
を献を 後て法ふ要夷の地語を問あり人月八月 旨科況法華を伝郭山ふ行ふ十六日大明人一
宮出業稗ふを上仏ふ大明人祀度 出雲ふ出ら後てあ人を白て唐土の出雲況あり月十月江戸
ふ 渡海武別忍ふ猟しの人十二月十六日後府ふ西城 是年道春ふ命して東遊紀要を
撰上せめらる 荘山文集又云云年譜ふ 大神君常に 巻長 十八年二月後別田中に様しの人
始後ふ遊況を学校素使 為長抄出ら

月月六日 神祇ふ於て為長湯武を論を六日 焼鳥出仕神及伝授秘密の事ふ漏ず受へきふ非
さるは後出さる 為長ふ本紀往考ふ余侍後府時 幕下一日与為長ふ法師問答及老宿ふ指
現申 幕下答曰此神志重種志子の所日雖也後又有如軍地義法法師受授事志
制雖尊母ふ又非拙ふ者田神祇院後府へまるを
法さり日ふ為長白て多ふ別ふ
ふ神代の紀ふ偽書を対て漢ふの人を紀ふ
文ふ出ふ昔 赤照大神天の治世也 徒余有育仏方
武王ふ法也 老可之後氏一治後府 鄭内修殺神紀を好
所可知耶 ふ人三出業月の儀すべき臣ふの代を
法義を定めらる 毛利一案記公家元家ふ学問量後出源ふて法仏才と載る月七月日本の紀
録出学ふ有へきの出源法也 月九月六日記別荘山ふ一切経の事ふ授受 出雲ふ 光紀いかと歌
荘院蔵る一切経の目録抄系経数又ふ紀百三十又巻 芳ふ
七十一巻を後ふ巻ふ抄ふ巻ふ少て九月六日に目録絶二巻を目也ふ
三義 史注ふ才一義 経本日在干紀別ふ歌巻ふ巻数
同安度年刀上田上乗ふ 表紙九云巻 沙経本次 絶 巻
供等 兎抱 抱云云 経本今安 巻 義 巻
ち才二義 絶本日在 和別田 巻 巻 巻
虞本才二義ハ 月年九月十七日後府出 奉 月廿七日 沙ふ入 入御 巻長 十九年六月沙ふ西九ふれ新
年是月後府へ 還御月三月又日又山 学問 仏云 御祇ふ於て即奉に社安石首作出さる

同二月七日以下の偽造下向のこと　上皇小達するの処明後九日出仕あるべく文章を出相案まべき
旨仰出さる歟の為改以強盗の中辰居を恐而元号共之と云々也　同九日以下の偽造文章を持く
御門人五位仲光以下数人花果流生訴拒禁と云歟　但らむ　如為小清盛為改以強
盗如小辰居を如元号共
之と云々也文小四世成成ハ偽造の品今天下騒逆の
接現孫出発と成是ハ面白ク成文法也　小辰の動乱して元号共に
号と云々也文小と　同廿六日管法を改め廿七日冷泉中納言為満系府を
あり　此夜乃至　御前小侍也　大臣以下今三箇の大事を同せらるる者云云　三箇の秘事の内
数多是あり　洋小三箇の秘密の内

出雲写あるべきとの仰せにて十六日江戸より出雲の侍従文須与来文弱ハ君子なく徒風也小人
なく徒業也業加之列必偃須ハ是徒任法任也同和常任（法奉方仮ル）　御前ニ於て今地院左
衛門ゑ門六月六日巻本の続日本紀不足の処十巻し中ゑ出侍ル御ゑ出ゑ続せゑ
御前ニ於て　大御所ニ人九の侍
記慈く仰ゑ書ル為満ゑて曰人九の中ハ神秘ゑ悪く存せ候ゑ既ル　大御所ゑ
ル同て曰和ゑの内人九の侍記を見ゑ為ゑ為満ゑて曰方蒙集に四人の人九あり我中ゑ神ゑ
柿本ゑ人ゑ侍ゑ神秘とゑ申ゑ為満閉口ゑ　和ル奥徒ゑ家林雑記ル
系図ゑ為満匠日記　出雲ル侍ル十日冷泉中納言江戸より西府　御前ニ出て冷泉々の家ゑ見
せ申ゑ出雲の四和歌あり内十首又書院ニ門の代侍ゑて江戸ル続く一切経紀ル出ル来ゑる六一切
経ハ毛利中納言ゑ初庵宗瑞の新本之　今ハ彼家ゑ自筆の侍物物語　幕下ゑ
来ゑ申ゑ　六井大炊頭相模ゑ彼本の奥ゑ出ル為ゑ　御前ニ於て是を憂　此本ハ内ゑ後土御門院の御
手渡侍て三条殿ゑ家ゑ是ゑ相模ゑ三条殿ゑ没ル後ゑ出ル後ゑ
是ゑ求めゑ来ル後尾ゑ下ル中ゑ成ル為ゑ　幕下ゑ来ゑる　内十八日公家衆

六日伊長老大義一覽を献じ作者白氏書を家也百数の二百数間板すべし幸に相字芳字
見ある由仰せらる（見羽版法号の抜萃なり）同七日山僧宗瀘第廿一代集目録唯公卿日記のみ九日
号蕉堂雅有人奏出の定家卿百首今集道遥院称名院第三代集未詠家歌
元亨釋書の満中に云古今集八頗不家也云十日公卿元金地院小弘法大師出心経
及風雅和歌の歳の三讃号参詣五道遥院称名院第伊勢物語二部同源氏物語系図
共定家卿勅撰ホ入奏らる流人目を驚ら仁十二日山名禅門　帝前小於て去吟の連歌と
異彩を十九日陳令公来仁見八金沢文庫より豊後関白見を以て今出川殿小渡さり今見を
奏せらる（令公篇内十篇不見　陳二巻見あり）廿二日花宮井雅庸源氏物語三箇の大事相伝を受ためのため同
年九月七日今日新撰大歌所清原秀相父秀賢死去小依て継目の出礼として条二公迷物
を献ぜ武家源氏十巻見を献じ内十巻不見ざる同年十月二日金地院より十七史全六十冊
四文庫（納む又遥式辞去治安　四塚（遥式辞去治安　四塚）遥式辞去治安　四塚）
四倍史後府　四発ら同廿三日二条城小　御見大坂陣敗小依て同廿日日本の記録等を

つきらる作出きる一ヶ寺より能出十人ヶ有孫ちへ家紙へきらる金地院板金伊賀ら連
名又山へ十巻　同廿七日又山僧伝又十人有孫ち金地院小於て法家の記録一本三部ヶ
出字せらるのみ一部八梅小中一部八江戸一部八後水小至しめのへきを伝書を道長
年ヶ同廿八日又山へ今家四出掛身長を也大光の外八人数小加ハへきを中流を同廿九日
板金伊賀ら五欽小ハ物見ら暦林間蓋物　犯文物　法家系図　蔵中物要法ちが
技楽集本国ちる左子伝見ス　同年十月彫日南禅ち金地院四出掛ヶ同法会ニ
条を宣出金地院板金伊賀ら連異を同二日二条屋より江次第家を紀を備らる
同日日行相市正大坂ら之中井大和ち人作付ら大坂を名の法号
を他らしむ（中井小家法小大和ち人作付ら大坂を名の法号　大坂陣楽中へ四法家　同六日右田神務院法家系号
之書出され法号小相伝ら年ヶ山華西一御へ）
七冊を勅上（印本法家大系号の書小抜萃の家出を　同九日南光坊伝長老奥四光の間一巻を雑後
又今家法家の記録四字小付て見奥　後紀弘仁貞観格式撰聚　国史撰聚　代格小　仏門法
ヶ家南光坊を以作出きる記録本書之即伝長老奥奉ヶ南光坊院条奏せらる和に

四天王寺の本四天王寺あるべき有さ月十日　仙洞より勅撰二代抄六巻武より一条院まで集代
記十六巻勅撰国史二巻古語拾遺名法要集神皇正統記南光坊院役ともに抄案役
ホ及て巻巻　御筆ホ於て巻巻漢文月十日　右府四位殿宣ホ対敵月十四日二条　四位殿
月十七日位吉の四陣宣ホ　源中月日南光坊院光　仙洞より令集群書ヲ月廿九日
勅使廣橋大納言宣勝卿二条大納言実條仰吉ホ来り四慰労の　勅宣宣月年十二月十四日
四尊ホ依て南禅院落雷並陸奥を献上仁皇本茅綱月ホ並陸の説あるを以て二月十日今日
より南禅寺の山僧出家りの節迫り対止む月十八日実ホ大坂和睦成月廿二日ホ松平出羽
殿一月廿二日伊長光月北嶺公　御筆ホ出仁仰ま曰今後家の記孫出家あり徳川公家
より古今礼義式法の御遠ヤさるべき旨先月和睦の処ホ古法を考べ仰ら月廿六日ホ
勅ホ　入御月廿六日令北院　御筆ヲ出し今後仰ら月る記孫ホの内四ヲ記古ヲ記続文
粹芸家文集和文記釈日本紀内裏式山槐記勅撰三代抄ホ勅ら巻月仰作ホ
日記ホ四ヲ記古ヲ記釈日本紀ハ神祇院より出ル月記ハ冷泉より三代実録ハ二条大納言より　文徳実録
ハ廣橋大納言より　西文記ハ三条家より出ル槐記ハ九条家より芸家文集ハ九条家より　ハ二条

後より内裏式ハ
宣勢より出ル
月廿八日四条内月廿九日智恩院八宮大光ら四ツ目ホ一条院廣橋大納言宣勝
納言　四対面月廿七ヶ条を持ら月廿日令ヲ白馬節会ヲ准后叙三位階ヲ皮
勢ヲ以下ヲ仰ホ曰是ヲ吳月ヲ月ヲの分傑令格式を考られ後府より仰ら月ヲの
法仰出是年乃至学校を洛陽ホ建む月ヲ清ホ是ヲ辞ヲ　乃至年僧ホ十九年光是生
旨可之将相俊擇扶依之華不果此冬遠有史坂之役又恨窩乃状ホ道春与後藤郎共白張建
座序於洛教生徒乃体　幕下謂郎曰道春自欲居座序別垂准式対曰物書院故在之見也
是より後十七年を経て寛永七年ホ初て座序を用んとするの一挙あり三年を経て乃至堂ホ上昇ホ建
て翌寛永七月十七日　右当座堂に流り乃至を以て先典を演せ[illegible]ホ[illegible]
是を拒せられ乃至の聰敏法有力を　[元和]元年　改元　月ホ音ホ紀　巻号月八日学殿りの礼ホ後
以て[illegible]年[illegible]の[illegible]
十日より書を入べき旨仰出る月十日南禅寺ホ於て記孫出家ホ月十八日　仙洞ホ出家
洛陽出家を令せら月年二月朔日日本の記孫出家卒業月日　仙洞ホ出家月十四日令
北院出家を扱ヲ外於府ホ家粮ヲ外ホ　出家月十二日殿廣ホ　還俗月年月九日
幕府より忍護面ヲ知ら世ヲホ出遊月十九日令北院道春ホ系統より幕府ホ又仙洞ヲ
外ら月出籍改より外巻の中中之南殿ホ　出御あり五雑俎勅刻月廿一日該家　勅筆の書物

被家あとをうくれば上洛の時法家作をらるべきなり大義一流相伝の事作せ
出さるべきなり二条殿へ小巻紙を偽らる門廿二日大義一流相伝作出さるべし依て法
名を孫海と号し相出六七人出すべきなれば法也門毎日東福寺不二庵へ大義一流文之巻一冊を
偽小生とて出之書巻を春として釋尊治要廻巻成補分出門年に門二日牙延山久生もより年
和文釋 二ヨリ 十三冊来る記孫出家年の長持三枝京都より西来 御院へ上元門門大坂年
家の浪人を召て命を下して大坂再征の事紀尾門十四日名護屋出発門十八日二条城へ
入御門廿二日 右廟出登営 出財新門年又門栄慶山出陣営へ 源門門二日清北征ら出
発九廿九日会戦の猛勇門記孫を勅して門四日 大御所武家の れ所れ動元門八日栄四山
出御京都出西庄二条出所 若御門七日大坂城城門八日豊臣秀頼母子自尽門九日法相
出城出祝義十上門十四日れ条内門年六月四日牙延山へ和和文釋を送る門毎日 大御所
お殿へ 出御しまの人を出彩版大義一流十紙後府より相来 出流の紙文字鮮明作白
一紙無小巻を押て法名に出附さへと長日二条出殿出報寄殿ゆて命北院出献して

出彩出を出接相頼せめらるる出月百三十紙余門壬六月八日後廟山へ大義一流を法九日
命北院へ和文釋牙延十三冊一紙和尚二至十巻 巻出 巻出 巻出

異大師宗淵を招き給ふ　同く　御使を遣はされ　今比院長を参じ給ふ　廿七日　将軍家二条に
渡御　冷泉大納言参楽　其外家元法大名出仕　同年七月　勅旨公家元法大名二条城に登営　賀宴
四社　五日　廿二日　伊長光法家の学業　御前に於て　御覧　御使　御ハ　参り　将軍　上洛　の
御作出　同日　大御所　南殿に出御　源氏物語　公家元祝　儀　終て　付　伊
与日記　之系　花　井　冷泉父子　烏丸　同　武家　法家　十六　条を頒布せ　る事
才一条に文武　馬　長　左　右　中　弁　参　と　戒　る　同　今日　冷泉　為満　系　上　伊　与　源氏
物語　奥入　の　参　を　同　為　の　公　処　定　家　自　筆　の　奥　入　正　本　の　中　に　る　に　揚　名　の　和　注　釈　の　上
知　て　是　を　銷　す　と　云　同　十　廿　勅　中　奥　公　家　法　法　家　十　七　条　に　同　才　一　条　に　天　子　遊　芸　の
多　才　一　法　学　同　也　不　学　則　不　の　古　道　而　能　致　太　平　者　未　之　有　也　貞　観　政　要　の　文　也　実　平
遊　芸　は　能　不　充　経　史　可　通　習　釋　出　治　要　に　和　歌　自　光　孝　天　皇　未　絶　絶　為　綺　語　我　出　家　信
也　不　可　棄　也　に　所　我　禁　秘　抄　御　習　学　書　要　よ　の　多　同　廿　廿　中　院　に　源　氏　物　語　初　書　の　巻　を
讀　出　同　廿　九　日　出　数　寄　屋　に　於　て　中　院　を　て　源　氏　物　語　第　末　の　巻　を　讀　し　め　給　ふ　伊　長　光

冷泉　同　能　を　讀　て　女　中　元　同　く　安　の　公　大　坂　殿　人　の　内　に　源　氏　を　讀　の　女　の　又　能
琴　を　教　せ　き　同　年　八　月　二　日　数　寄　屋　に　於　て　中　院　を　て　源　氏　物　語　第　末　の　巻　を　讀　し　め
給　ふ　同　廿　日　此　日　出　系　に　て　出　和　矢　橋　より　水　に　茶　御　森　の　輪　を　留　る　と　云　日　茶　を　て
御　語　学　而　篇　を　讀　せ　き　を　能　渇　を　力　往　致　を　為　と　云　処　を　出　自　為　の　讀　社　成　能　と　云
字　義　出　源　釈　あ　り　（去　る　丙　申　記　の　水　に　の　条　に　去　年　八　月　記　日　大　和　出　二　条　の　に　西　を　出　御　あ　る　に　調　三　日
出　本　よ　り　参　せ　の　人　を　日　より　打　擲　為　降　け　る　に　三　日　遅　為　中　し　く　け　る　に　殺　る　事　を
御　前　に　予　も　伴　り　し　間　学　而　の　篇　を　讀　め　と　後　け　る　に　讀　き　知　き　伴　り　し　小　能　渇　を　為　能　致　を　為　と　云　処　を　自
う　出　絶　あ　て　能　と　い　ふ　字　に　能　を　て　対　り　あ　れ　さ　り　ま　そ　ふ　左　を　之　親　し　狂　う　分　を　渇　し　元　に　分　を　致　と　あ　れ　ば
御　を　と　き　と　為　る　と　浮　編　あ　る　へ　し　と　作　け　る　に　予　も　か　の　説　苞　う　故　の　を　河　て　同　十　廿　伴　松　葉　に　大　義　一　流　を　讀　に
義　人　な　り　し　ど　に　今　を　を　熟　く　て　す　る　に　能　を　を　伴　り　伴　る　と　い　う　同　十　廿　伴　松　葉　に　大　義　一　流　を　讀　に

十七日　伴　不　殘　に　文　義　一　流　を　讀　ふ　同　年　八　月　記　日　二　条　出　数　途　殿　府　に　還　幸　同　廿　九　日　殿　府　を
出　発　す　同　年　九　月　十　日　江　戸　西　丸　へ　入　御　同　月　廿　八　日　四　事　記　古　事　記　律　令　続　日　本　紀　続　日　本　後　紀　文
徳　実　録　将　軍　家　へ　学　を　奉　れ　て　能　記　録　を　伝　出　る　同　年　十　月　記　日　韓　長　光　拍　の　和　河　金　脇
中　番　禁　裏　に　参　て　出　板　余　伴　参　る　中　来　る　同　年　十　月　廿　日　江　戸　出　発　同　廿　六　日　殿　府　へ　入　御
元和　二年　正　月　新　日　法　士　始　て　烏　帽　子　を　着　袍　を　着　し　初　正　参　し　奉　る　九　二　日　殿　府　田　中　に　猟　し　給　ふ　俄

[illegible]に出発病出不録よ対　右廉江戸　出発当月十九日辯玄治要校合人以上山伝を呼下すべきを
右廉後府へ　入洛月二日出発法出病同小辯玄治要校合人以上山伝を呼下すべきを
伝出きを　光紀二月十日の出中に云辯玄治要校合の義[illegible]中ハ[illegible]小分て[illegible]法月七日校合伝[illegible]
[illegible]ハ[illegible]六日の出伝法よ守ると伝出ハ校合人以上山伝て呼下ると伝出ハ校合人以上山伝て呼下ると伝出ハ校合人
[illegible]り辯玄治要校本脇子拵子木切廿廿人[illegible]紙も校合[illegible]系統小[illegible]月廿三[illegible]九
出[illegible]の[illegible]辯玄治要校小脇の間法法[illegible]系[illegible]
上[illegible]分松平右京の伝校[illegible]内[illegible]出秋元但馬[illegible]絶裁[illegible]月辯玄治要校小伝[illegible]
字[illegible]小[illegible]九出小納戸より九出[illegible]の九出[illegible]月廿[illegible]日辯玄治要[illegible]の[illegible]字明
人林五郎[illegible]補造せ[illegible]月廿九日[illegible]出洋任の時出[illegible]一首[illegible]
を[illegible]せ[illegible]月[illegible]十日[illegible]出[illegible]人[illegible]
[illegible]伝小[illegible]月日辯玄治要[illegible]字の時足[illegible]
伝[illegible]命せ[illegible]月廿七日[illegible]改[illegible]月[illegible]十七日後府[illegible]小　[illegible]年[illegible]月十七日[illegible]の刻
[illegible]出[illegible]後久[illegible]出[illegible]神[illegible]第[illegible]大[illegible]と称[illegible]月廿二日　右廉出[illegible]治要[illegible]

[illegible]小[illegible]て出[illegible]　安出院殿徳蓮社崇[illegible]道和大居士小[illegible]
出安[illegible]也　[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十九日依後鳥羽院宣次三位以上方不定井恒秀兼賀如例二位五位別選所有之左近將曰幕下[illegible]

[illegible]

久能社事　御社西　御弓　御矢　楯桙　以上[illegible]　教[illegible]

御饒[illegible]　御幣　榊系内記持参　給予　御輿　供奉烏帽子上下　御弓　御矢　楯桙　同　太田[illegible]

法也御幣ハ榊系内記持参給ハ予拝之也同之儀式如例ハ下也者　選定ハ　次内陣出来

の時悉拝地中分次饒を内ニ陣ヘ納て教米悉ハ麻を掛之御饒を予拝也　次出神供

一銚後菜六銚也後菜三十六味ハ皆精進也　次礼三献絹を奉供神供也内記ヘ作法

中分也　次三献加持　次三献七麻　百二十疋頒之　次祝戸降文　灌白元和二年卯月十

九日　吉日良辰乎　太政大臣従一位源朝臣家康公乃　御形像乎　駿州有渡

郡久能乃奉葬高嶺仁　備神供後菜此状乎　安久久鎮坐豆　天下静謐弥繁昌

長久之基乎　守利益与　恐美毛奉申　辞別仁申佐久自然参集中仁不心不

浄乃者在　止毛　御廣　成　御心恵　於以　天　守護　幸給　倍止　恐美毛　申　次小拝次

物を次退下次奉幣　次再拝　榊系内記作法　義中　敬ハ　次年号元各一注[illegible]

[illegible]

右の作法ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

宮号宣下　▲御産所ハ冥加刑部卿ノ局ノ縁故ノ家ニ

九月十六日　或八月廿九日　故ノ為ニ出生害ヲ免ル別清竜寺ニ出葬送西光院殿ト称シ第二ノ後ノ御産所ハ豊臣太閤ノ妹　朝日姫　ト称ス　天正十四年ノ月十四日聚楽亭ニ於テ逝去ス年四十八宗福寺ニ出葬送南明院殿ト称シ第三ノ正室ニ正徳元年十一月ニ供因ノ月十五日ニ出生ス

○

台徳院殿御世　秀忠公御事ハ　東照宮御二男ニ母堂ハ西郷の局　於愛の方ト称シ西郷局ト称ス

実ハ戸塚ノ弟ノ実ノ娘ノ実ノ娘ノ女天正十七年ノ月十九日出宅ス　養院殿ト称ス　後ノ御産所ハ冥加刑部卿ノ局ノ縁故ノ家ニ

天正七年ノ月七日ニ遠州浜松城ニ出誕生　於長丸　或ハ長丸　ト称シ奉ル　天正　十六年ノ月八日ニ従五位下侍従　或ハ代ハ侍従　ト称シ奉ル人ス　天正　十六年正月ノ月ニ従五位下　正邦按ニ十八ス

年十六年ノ月ノ月ノ従五位下ノ侍従ノ事ハ実ノ事ニ非ス　ト云ヘリ　天正十八年正月十六日世子ニ定ル　聚楽ノ邸ノ年十二歳ノ時ノ事ニ　世子ノ定ル　ノ時ノ事ニ　改ル　ノ事ニ　ト云ヘリ　渭南正日記ニ　慶長ノ年　関東ノ年　ト云ヘリ　秀忠公ノ事ニ　衣服　ノ事ニ　ト云ヘリ　吾妻鏡ノ事ニ　ト云ヘリ　秀忠公

繞所にあり二月日長丸君生（母東洋女王七年九月廿五日逝世法名法華院殿蓮花浄土尼公）二月廿四日大坂より御足へ出発日廿八日桂大納言
従二位日廿九日　出京内日年正月十日御足　出発途江戸へ　還所又月十二日　徳川君生（母堂東泉院殿十六年九月廿日）
徳川幸和公亜之篠中後称号田中義宗寛文　十二年二月廿日逝（法華宗院殿蓮華天徳寺）　[寛文]七年正月　京四宮より冥京に於て二十万石を世
ら る　当代年孫小二十万石三万石弁殿の世　大納言綱京性院号巳元（公祝号）とあり　[寛文]八年七月初旬君生（母堂東泉院殿十年七月京極氏侯ら
蓮華院通院　十月七日出発江戸を発大坂右京察出監　[寛文]九年二月西園寺右大臣政父松平参
の遺物朱盃を勅使六月十日　出入洛日十一日　出京内　烈祖公謁小今年六月十日　神祖至京
松平忠房公　右徳川氏の子孫世子入京以前の年二月　神祖公謁小今年二月八幡と一緒に参京　[寛文]十年　[寛文]十一年江戸城改築
仲恒と　当代年孫也　右徳川氏の子孫世子入京以前の年二月　神祖公謁小今年二月八幡と一緒に参京　[寛文]十年　[寛文]十一年江戸城改築
生　御所の代表に毋堂院殿　[寛文]十年　出上洛二月廿日御足誠小　入御廿日　出京内　七月
出発世紀小出之　[寛文]十年　出上洛二月廿日御足誠小　入御廿日　出京内　七月
京四宮出発　織田十六日二条城小於て将軍　宣下内大臣　徳川大将軍正二位六を清大将
元のかし　為源和姓学友院　別当源氏長老　朱車を許されて陸奥兵庫を賜る　月宣
出京内出発　月廿七日公々二条城小来賀　長日御足へ　還所　月年六月初旬江戸小　還所
城小礼出　参庭　月年六月日江戸小　還所

出京代表　当代の大納言　毋堂院殿　[寛文]元和元年十二月　従二位小納言　[寛文]十一年　[寛文]十二年正月
寛文元年八月　朝鮮国使　内二年八月廿日　従二位権大納言　八年九月出陣　九年十二月六日逝　法華宗　[寛文]十二年
号　法名　大名　月年九月廿三日　彩成　より出後　従　[寛文]十二年正月　出京撤出　懐文　月日月名　[寛文]十二年　[寛文]十三年
出　[寛文]十三年　[寛文]十四年　[寛文]十五年　[寛文]十六年　[寛文]十七年　[寛文]十八年　[寛文]十九年　[寛文]二十年　[寛文]二十一年　[寛文]二十二年　[寛文]二十三年　[寛文]二十四年　[寛文]二十五年　[寛文]二十六年　[寛文]二十七年　[寛文]二十八年　[寛文]二十九年　[寛文]三十年　[寛文]三十一年　[寛文]三十二年　[寛文]三十三年　[寛文]三十四年　[寛文]三十五年　[寛文]三十六年　[寛文]三十七年　[寛文]三十八年　[寛文]三十九年　[寛文]四十年　[寛文]四十一年　[寛文]四十二年　[寛文]四十三年　[寛文]四十四年　[寛文]四十五年　[寛文]四十六年　[寛文]四十七年　[寛文]四十八年　[寛文]四十九年　[寛文]五十年　[寛文]五十一年　[寛文]五十二年　[寛文]五十三年　[寛文]五十四年　[寛文]五十五年　[寛文]五十六年　[寛文]五十七年　[寛文]五十八年　[寛文]五十九年　[寛文]六十年　[寛文]六十一年　[寛文]六十二年　[寛文]六十三年　[寛文]六十四年　[寛文]六十五年　[寛文]六十六年　[寛文]六十七年　[寛文]六十八年　[寛文]六十九年　[寛文]七十年　[寛文]七十一年　[寛文]七十二年　[寛文]七十三年　[寛文]七十四年　[寛文]七十五年　[寛文]七十六年　[寛文]七十七年　[寛文]七十八年　[寛文]七十九年　[寛文]八十年　[寛文]八十一年　[寛文]八十二年　[寛文]八十三年　[寛文]八十四年　[寛文]八十五年　[寛文]八十六年　[寛文]八十七年　[寛文]八十八年　[寛文]八十九年　[寛文]九十年　[寛文]九十一年　[寛文]九十二年　[寛文]九十三年　[寛文]九十四年　[寛文]九十五年　[寛文]九十六年　[寛文]九十七年　[寛文]九十八年　[寛文]九十九年　[寛文]百年　[寛文]百一年　[寛文]百二年　[寛文]百三年　[寛文]百四年　[寛文]百五年　[寛文]百六年　[寛文]百七年　[寛文]百八年　[寛文]百九年　[寛文]百十年　[寛文]百十一年　[寛文]百十二年　[寛文]百十三年　[寛文]百十四年　[寛文]百十五年　[寛文]百十六年　[寛文]百十七年　[寛文]百十八年　[寛文]百十九年　[寛文]百二十年　[寛文]百二十一年　[寛文]百二十二年　[寛文]百二十三年　[寛文]百二十四年　[寛文]百二十五年　[寛文]百二十六年　[寛文]百二十七年　[寛文]百二十八年　[寛文]百二十九年　[寛文]百三十年　[寛文]百三十一年　[寛文]百三十二年　[寛文]百三十三年　[寛文]百三十四年　[寛文]百三十五年　[寛文]百三十六年　[寛文]百三十七年　[寛文]百三十八年　[寛文]百三十九年　[寛文]百四十年　[寛文]百四十一年　[寛文]百四十二年　[寛文]百四十三年　[寛文]百四十四年　[寛文]百四十五年　[寛文]百四十六年　[寛文]百四十七年　[寛文]百四十八年　[寛文]百四十九年　[寛文]百五十年　[寛文]百五十一年　[寛文]百五十二年　[寛文]百五十三年　[寛文]百五十四年　[寛文]百五十五年　[寛文]百五十六年　[寛文]百五十七年　[寛文]百五十八年　[寛文]百五十九年　[寛文]百六十年　[寛文]百六十一年　[寛文]百六十二年　[寛文]百六十三年　[寛文]百六十四年　[寛文]百六十五年　[寛文]百六十六年　[寛文]百六十七年　[寛文]百六十八年　[寛文]百六十九年　[寛文]百七十年　[寛文]百七十一年　[寛文]百七十二年　[寛文]百七十三年　[寛文]百七十四年　[寛文]百七十五年　[寛文]百七十六年　[寛文]百七十七年　[寛文]百七十八年　[寛文]百七十九年　[寛文]百八十年　[寛文]百八十一年　[寛文]百八十二年　[寛文]百八十三年　[寛文]百八十四年　[寛文]百八十五年　[寛文]百八十六年　[寛文]百八十七年　[寛文]百八十八年　[寛文]百八十九年　[寛文]百九十年　[寛文]百九十一年　[寛文]百九十二年　[寛文]百九十三年　[寛文]百九十四年　[寛文]百九十五年　[寛文]百九十六年　[寛文]百九十七年　[寛文]百九十八年　[寛文]百九十九年　[寛文]二百年　[寛文]二百一年　[寛文]二百二年　[寛文]二百三年　[寛文]二百四年　[寛文]二百五年　[寛文]二百六年　[寛文]二百七年　[寛文]二百八年　[寛文]二百九年　[寛文]二百十年　[寛文]二百十一年　[寛文]二百十二年　[寛文]二百十三年　[寛文]二百十四年　[寛文]二百十五年　[寛文]二百十六年　[寛文]二百十七年　[寛文]二百十八年　[寛文]二百十九年　[寛文]二百二十年　[寛文]二百二十一年　[寛文]二百二十二年　[寛文]二百二十三年　[寛文]二百二十四年　[寛文]二百二十五年　[寛文]二百二十六年　[寛文]二百二十七年　[寛文]二百二十八年　[寛文]二百二十九年　[寛文]二百三十年　[寛文]二百三十一年　[寛文]二百三十二年　[寛文]二百三十三年　[寛文]二百三十四年　[寛文]二百三十五年　[寛文]二百三十六年　[寛文]二百三十七年　[寛文]二百三十八年　[寛文]二百三十九年　[寛文]二百四十年　[寛文]二百四十一年　[寛文]二百四十二年　[寛文]二百四十三年　[寛文]二百四十四年　[寛文]二百四十五年　[寛文]二百四十六年　[寛文]二百四十七年　[寛文]二百四十八年　[寛文]二百四十九年　[寛文]二百五十年　[寛文]二百五十一年　[寛文]二百五十二年　[寛文]二百五十三年　[寛文]二百五十四年　[寛文]二百五十五年　[寛文]二百五十六年　[寛文]二百五十七年　[寛文]二百五十八年　[寛文]二百五十九年　[寛文]二百六十年　[寛文]二百六十一年　[寛文]二百六十二年　[寛文]二百六十三年　[寛文]二百六十四年　[寛文]二百六十五年　[寛文]二百六十六年　[寛文]二百六十七年　[寛文]二百六十八年　[寛文]二百六十九年　[寛文]二百七十年　[寛文]二百七十一年　[寛文]二百七十二年　[寛文]二百七十三年　[寛文]二百七十四年　[寛文]二百七十五年　[寛文]二百七十六年　[寛文]二百七十七年　[寛文]二百七十八年　[寛文]二百七十九年　[寛文]二百八十年　[寛文]二百八十一年　[寛文]二百八十二年　[寛文]二百八十三年　[寛文]二百八十四年　[寛文]二百八十五年　[寛文]二百八十六年　[寛文]二百八十七年　[寛文]二百八十八年　[寛文]二百八十九年　[寛文]二百九十年　[寛文]二百九十一年　[寛文]二百九十二年　[寛文]二百九十三年　[寛文]二百九十四年　[寛文]二百九十五年　[寛文]二百九十六年　[寛文]二百九十七年　[寛文]二百九十八年　[寛文]二百九十九年　[寛文]三百年　[寛文]三百一年　[寛文]三百二年　[寛文]三百三年　[寛文]三百四年　[寛文]三百五年　[寛文]三百六年　[寛文]三百七年　[寛文]三百八年　[寛文]三百九年　[寛文]三百十年　[寛文]三百十一年　[寛文]三百十二年　[寛文]三百十三年　[寛文]三百十四年　[寛文]三百十五年　[寛文]三百十六年　[寛文]三百十七年　[寛文]三百十八年　[寛文]三百十九年　[寛文]三百二十年　[寛文]三百二十一年　[寛文]三百二十二年　[寛文]三百二十三年　[寛文]三百二十四年　[寛文]三百二十五年　[寛文]三百二十六年　[寛文]三百二十七年　[寛文]三百二十八年　[寛文]三百二十九年　[寛文]三百三十年　[寛文]三百三十一年　[寛文]三百三十二年　[寛文]三百三十三年　[寛文]三百三十四年　[寛文]三百三十五年　[寛文]三百三十六年　[寛文]三百三十七年　[寛文]三百三十八年　[寛文]三百三十九年　[寛文]三百四十年　[寛文]三百四十一年　[寛文]三百四十二年　[寛文]三百四十三年　[寛文]三百四十四年　[寛文]三百四十五年　[寛文]三百四十六年　[寛文]三百四十七年　[寛文]三百四十八年　[寛文]三百四十九年　[寛文]三百五十年　[寛文]三百五十一年　[寛文]三百五十二年　[寛文]三百五十三年　[寛文]三百五十四年　[寛文]三百五十五年　[寛文]三百五十六年　[寛文]三百五十七年　[寛文]三百五十八年　[寛文]三百五十九年　[寛文]三百六十年　[寛文]三百六十一年　[寛文]三百六十二年　[寛文]三百六十三年　[寛文]三百六十四年　[寛文]三百六十五年　[寛文]三百六十六年　[寛文]三百六十七年　[寛文]三百六十八年　[寛文]三百六十九年　[寛文]三百七十年　[寛文]三百七十一年　[寛文]三百七十二年　[寛文]三百七十三年　[寛文]三百七十四年　[寛文]三百七十五年　[寛文]三百七十六年　[寛文]三百七十七年　[寛文]三百七十八年　[寛文]三百七十九年　[寛文]三百八十年　[寛文]三百八十一年　[寛文]三百八十二年　[寛文]三百八十三年　[寛文]三百八十四年　[寛文]三百八十五年　[寛文]三百八十六年　[寛文]三百八十七年　[寛文]三百八十八年　[寛文]三百八十九年　[寛文]三百九十年　[寛文]三百九十一年　[寛文]三百九十二年　[寛文]三百九十三年　[寛文]三百九十四年　[寛文]三百九十五年　[寛文]三百九十六年　[寛文]三百九十七年　[寛文]三百九十八年　[寛文]三百九十九年　[寛文]四百年　[寛文]四百一年　[寛文]四百二年　[寛文]四百三年　[寛文]四百四年　[寛文]四百五年　[寛文]四百六年　[寛文]四百七年　[寛文]四百八年　[寛文]四百九年　[寛文]四百十年　[寛文]四百十一年　[寛文]四百十二年　[寛文]四百十三年　[寛文]四百十四年　[寛文]四百十五年　[寛文]四百十六年　[寛文]四百十七年　[寛文]四百十八年　[寛文]四百十九年　[寛文]四百二十年　[寛文]四百二十一年　[寛文]四百二十二年　[寛文]四百二十三年　[寛文]四百二十四年　[寛文]四百二十五年　[寛文]四百二十六年　[寛文]四百二十七年　[寛文]四百二十八年　[寛文]四百二十九年　[寛文]四百三十年　[寛文]四百三十一年　[寛文]四百三十二年　[寛文]四百三十三年　[寛文]四百三十四年　[寛文]四百三十五年　[寛文]四百三十六年　[寛文]四百三十七年　[寛文]四百三十八年　[寛文]四百三十九年　[寛文]四百四十年　[寛文]四百四十一年　[寛文]四百四十二年　[寛文]四百四十三年　[寛文]四百四十四年　[寛文]四百四十五年　[寛文]四百四十六年　[寛文]四百四十七年　[寛文]四百四十八年　[寛文]四百四十九年　[寛文]四百五十年　[寛文]四百五十一年　[寛文]四百五十二年　[寛文]四百五十三年　[寛文]四百五十四年　[寛文]四百五十五年　[寛文]四百五十六年　[寛文]四百五十七年　[寛文]四百五十八年　[寛文]四百五十九年　[寛文]四百六十年　[寛文]四百六十一年　[寛文]四百六十二年　[寛文]四百六十三年　[寛文]四百六十四年　[寛文]四百六十五年　[寛文]四百六十六年　[寛文]四百六十七年　[寛文]四百六十八年　[寛文]四百六十九年　[寛文]四百七十年　[寛文]四百七十一年　[寛文]四百七十二年　[寛文]四百七十三年　[寛文]四百七十四年　[寛文]四百七十五年　[寛文]四百七十六年　[寛文]四百七十七年　[寛文]四百七十八年　[寛文]四百七十九年　[寛文]四百八十年　[寛文]四百八十一年　[寛文]四百八十二年　[寛文]四百八十三年　[寛文]四百八十四年　[寛文]四百八十五年　[寛文]四百八十六年　[寛文]四百八十七年　[寛文]四百八十八年　[寛文]四百八十九年　[寛文]四百九十年　[寛文]四百九十一年　[寛文]四百九十二年　[寛文]四百九十三年　[寛文]四百九十四年　[寛文]四百九十五年　[寛文]四百九十六年　[寛文]四百九十七年　[寛文]四百九十八年　[寛文]四百九十九年　[寛文]五百年　[寛文]五百一年　[寛文]五百二年　[寛文]五百三年　[寛文]五百四年　[寛文]五百五年　[寛文]五百六年　[寛文]五百七年　[寛文]五百八年　[寛文]五百九年　[寛文]五百十年　[寛文]五百十一年　[寛文]五百十二年　[寛文]五百十三年　[寛文]五百十四年　[寛文]五百十五年　[寛文]五百十六年　[寛文]五百十七年　[寛文]五百十八年　[寛文]五百十九年　[寛文]五百二十年　[寛文]五百二十一年　[寛文]五百二十二年　[寛文]五百二十三年　[寛文]五百二十四年　[寛文]五百二十五年　[寛文]五百二十六年　[寛文]五百二十七年　[寛文]五百二十八年　[寛文]五百二十九年　[寛文]五百三十年　[寛文]五百三十一年　[寛文]五百三十二年　[寛文]五百三十三年　[寛文]五百三十四年　[寛文]五百三十五年　[寛文]五百三十六年　[寛文]五百三十七年　[寛文]五百三十八年　[寛文]五百三十九年　[寛文]五百四十年　[寛文]五百四十一年　[寛文]五百四十二年　[寛文]五百四十三年　[寛文]五百四十四年　[寛文]五百四十五年　[寛文]五百四十六年　[寛文]五百四十七年　[寛文]五百四十八年　[寛文]五百四十九年　[寛文]五百五十年　[寛文]五百五十一年　[寛文]五百五十二年　[寛文]五百五十三年　[寛文]五百五十四年　[寛文]五百五十五年　[寛文]五百五十六年　[寛文]五百五十七年　[寛文]五百五十八年　[寛文]五百五十九年　[寛文]五百六十年　[寛文]五百六十一年　[寛文]五百六十二年　[寛文]五百六十三年　[寛文]五百六十四年　[寛文]五百六十五年　[寛文]五百六十六年　[寛文]五百六十七年　[寛文]五百六十八年　[寛文]五百六十九年　[寛文]五百七十年　[寛文]五百七十一年　[寛文]五百七十二年　[寛文]五百七十三年　[寛文]五百七十四年　[寛文]五百七十五年　[寛文]五百七十六年　[寛文]五百七十七年　[寛文]五百七十八年　[寛文]五百七十九年　[寛文]五百八十年　[寛文]五百八十一年　[寛文]五百八十二年　[寛文]五百八十三年　[寛文]五百八十四年　[寛文]五百八十五年　[寛文]五百八十六年　[寛文]五百八十七年　[寛文]五百八十八年　[寛文]五百八十九年　[寛文]五百九十年　[寛文]五百九十一年　[寛文]五百九十二年　[寛文]五百九十三年　[寛文]五百九十四年　[寛文]五百九十五年　[寛文]五百九十六年　[寛文]五百九十七年　[寛文]五百九十八年　[寛文]五百九十九年　[寛文]六百年　[寛文]六百一年　[寛文]六百二年　[寛文]六百三年　[寛文]六百四年　[寛文]六百五年　[寛文]六百六年　[寛文]六百七年　[寛文]六百八年　[寛文]六百九年　[寛文]六百十年　[寛文]六百十一年　[寛文]六百十二年　[寛文]六百十三年　[寛文]六百十四年　[寛文]六百十五年　[寛文]六百十六年　[寛文]六百十七年　[寛文]六百十八年　[寛文]六百十九年　[寛文]六百二十年　[寛文]六百二十一年　[寛文]六百二十二年　[寛文]六百二十三年　[寛文]六百二十四年　[寛文]六百二十五年　[寛文]六百二十六年　[寛文]六百二十七年　[寛文]六百二十八年　[寛文]六百二十九年　[寛文]六百三十年　[寛文]六百三十一年　[寛文]六百三十二年　[寛文]六百三十三年　[寛文]六百三十四年　[寛文]六百三十五年　[寛文]六百三十六年　[寛文]六百三十七年　[寛文]六百三十八年　[寛文]六百三十九年　[寛文]六百四十年　[寛文]六百四十一年　[寛文]六百四十二年　[寛文]六百四十三年　[寛文]六百四十四年　[寛文]六百四十五年　[寛文]六百四十六年　[寛文]六百四十七年　[寛文]六百四十八年　[寛文]六百四十九年　[寛文]六百五十年　[寛文]六百五十一年　[寛文]六百五十二年　[寛文]六百五十三年　[寛文]六百五十四年　[寛文]六百五十五年　[寛文]六百五十六年　[寛文]六百五十七年　[寛文]六百五十八年　[寛文]六百五十九年　[寛文]六百六十年　[寛文]六百六十一年　[寛文]六百六十二年　[寛文]六百六十三年　[寛文]六百六十四年　[寛文]六百六十五年　[寛文]六百六十六年　[寛文]六百六十七年　[寛文]六百六十八年　[寛文]六百六十九年　[寛文]六百七十年　[寛文]六百七十一年　[寛文]六百七十二年　[寛文]六百七十三年　[寛文]六百七十四年　[寛文]六百七十五年　[寛文]六百七十六年　[寛文]六百七十七年　[寛文]六百七十八年　[寛文]六百七十九年　[寛文]六百八十年　[寛文]六百八十一年　[寛文]六百八十二年　[寛文]六百八十三年　[寛文]六百八十四年　[寛文]六百八十五年　[寛文]六百八十六年　[寛文]六百八十七年　[寛文]六百八十八年　[寛文]六百八十九年　[寛文]六百九十年　[寛文]六百九十一年　[寛文]六百九十二年　[寛文]六百九十三年　[寛文]六百九十四年　[寛文]六百九十五年　[寛文]六百九十六年　[寛文]六百九十七年　[寛文]六百九十八年　[寛文]六百九十九年　[寛文]七百年　[寛文]七百一年　[寛文]七百二年　[寛文]七百三年　[寛文]七百四年　[寛文]七百五年　[寛文]七百六年　[寛文]七百七年　[寛文]七百八年　[寛文]七百九年　[寛文]七百十年　[寛文]七百十一年　[寛文]七百十二年　[寛文]七百十三年　[寛文]七百十四年　[寛文]七百十五年　[寛文]七百十六年　[寛文]七百十七年　[寛文]七百十八年　[寛文]七百十九年　[寛文]七百二十年　[寛文]七百二十一年　[寛文]七百二十二年　[寛文]七百二十三年　[寛文]七百二十四年　[寛文]七百二十五年　[寛文]七百二十六年　[寛文]七百二十七年　[寛文]七百二十八年　[寛文]七百二十九年　[寛文]七百三十年　[寛文]七百三十一年　[寛文]七百三十二年　[寛文]七百三十三年　[寛文]七百三十四年　[寛文]七百三十五年　[寛文]七百三十六年　[寛文]七百三十七年　[寛文]七百三十八年　[寛文]七百三十九年　[寛文]七百四十年　[寛文]七百四十一年　[寛文]七百四十二年　[寛文]七百四十三年　[寛文]七百四十四年　[寛文]七百四十五年　[寛文]七百四十六年　[寛文]七百四十七年　[寛文]七百四十八年　[寛文]七百四十九年　[寛文]七百五十年　[寛文]七百五十一年　[寛文]七百五十二年　[寛文]七百五十三年　[寛文]七百五十四年　[寛文]七百五十五年　[寛文]七百五十六年　[寛文]七百五十七年　[寛文]七百五十八年　[寛文]七百五十九年　[寛文]七百六十年　[寛文]七百六十一年　[寛文]七百六十二年　[寛文]七百六十三年　[寛文]七百六十四年　[寛文]七百六十五年　[寛文]七百六十六年　[寛文]七百六十七年　[寛文]七百六十八年　[寛文]七百六十九年　[寛文]七百七十年　[寛文]七百七十一年　[寛文]七百七十二年　[寛文]七百七十三年　[寛文]七百七十四年　[寛文]七百七十五年　[寛文]七百七十六年　[寛文]七百七十七年　[寛文]七百七十八年　[寛文]七百七十九年　[寛文]七百八十年　[寛文]七百八十一年　[寛文]七百八十二年　[寛文]七百八十三年　[寛文]七百八十四年　[寛文]七百八十五年　[寛文]七百八十六年　[寛文]七百八十七年　[寛文]七百八十八年　[寛文]七百八十九年　[寛文]七百九十年　[寛文]七百九十一年　[寛文]七百九十二年　[寛文]七百九十三年　[寛文]七百九十四年　[寛文]七百九十五年　[寛文]七百九十六年　[寛文]七百九十七年　[寛文]七百九十八年　[寛文]七百九十九年　[寛文]八百年　[寛文]八百一年　[寛文]八百二年　[寛文]八百三年　[寛文]八百四年　[寛文]八百五年　[寛文]八百六年　[寛文]八百七年　[寛文]八百八年　[寛文]八百九年　[寛文]八百十年　[寛文]八百十一年　[寛文]八百十二年　[寛文]八百十三年　[寛文]八百十四年　[寛文]八百十五年　[寛文]八百十六年　[寛文]八百十七年　[寛文]八百十八年　[寛文]八百十九年　[寛文]八百二十年　[寛文]八百二十一年　[寛文]八百二十二年　[寛文]八百二十三年　[寛文]八百二十四年　[寛文]八百二十五年　[寛文]八百二十六年　[寛文]八百二十七年　[寛文]八百二十八年　[寛文]八百二十九年　[寛文]八百三十年　[寛文]八百三十一年　[寛文]八百三十二年　[寛文]八百三十三年　[寛文]八百三十四年　[寛文]八百三十五年　[寛文]八百三十六年　[寛文]八百三十七年　[寛文]八百三十八年　[寛文]八百三十九年　[寛文]八百四十年　[寛文]八百四十一年　[寛文]八百四十二年　[寛文]八百四十三年　[寛文]八百四十四年　[寛文]八百四十五年　[寛文]八百四十六年　[寛文]八百四十七年　[寛文]八百四十八年　[寛文]八百四十九年　[寛文]八百五十年　[寛文]八百五十一年　[寛文]八百五十二年　[寛文]八百五十三年　[寛文]八百五十四年　[寛文]八百五十五年　[寛文]八百五十六年　[寛文]八百五十七年　[寛文]八百五十八年　[寛文]八百五十九年　[寛文]八百六十年　[寛文]八百六十一年　[寛文]八百六十二年　[寛文]八百六十三年　[寛文]八百六十四年　[寛文]八百六十五年　[寛文]八百六十六年　[寛文]八百六十七年　[寛文]八百六十八年　[寛文]八百六十九年　[寛文]八百七十年　[寛文]八百七十一年　[寛文]八百七十二年　[寛文]八百七十三年　[寛文]八百七十四年　[寛文]八百七十五年　[寛文]八百七十六年　[寛文]八百七十七年　[寛文]八百七十八年　[寛文]八百七十九年　[寛文]八百八十年　[寛文]八百八十一年　[寛文]八百八十二年　[寛文]八百八十三年　[寛文]八百八十四年　[寛文]八百八十五年　[寛文]八百八十六年　[寛文]八百八十七年　[寛文]八百八十八年　[寛文]八百八十九年　[寛文]八百九十年　[寛文]八百九十一年　[寛文]八百九十二年　[寛文]八百九十三年　[寛文]八百九十四年　[寛文]八百九十五年　[寛文]八百九十六年　[寛文]八百九十七年　[寛文]八百九十八年　[寛文]八百九十九年　[寛文]九百年　[寛文]九百一年　[寛文]九百二年　[寛文]九百三年　[寛文]九百四年　[寛文]九百五年　[寛文]九百六年　[寛文]九百七年　[寛文]九百八年　[寛文]九百九年　[寛文]九百十年　[寛文]九百十一年　[寛文]九百十二年　[寛文]九百十三年　[寛文]九百十四年　[寛文]九百十五年　[寛文]九百十六年　[寛文]九百十七年　[寛文]九百十八年　[寛文]九百十九年　[寛文]九百二十年　[寛文]九百二十一年　[寛文]九百二十二年　[寛文]九百二十三年　[寛文]九百二十四年　[寛文]九百二十五年　[寛文]九百二十六年　[寛文]九百二十七年　[寛文]九百二十八年　[寛文]九百二十九年　[寛文]九百三十年　[寛文]九百三十一年　[寛文]九百三十二年　[寛文]九百三十三年　[寛文]九百三十四年　[寛文]九百三十五年　[寛文]九百三十六年　[寛文]九百三十七年　[寛文]九百三十八年　[寛文]九百三十九年　[寛文]九百四十年　[寛文]九百四十一年　[寛文]九百四十二年　[寛文]九百四十三年　[寛文]九百四十四年　[寛文]九百四十五年　[寛文]九百四十六年　[寛文]九百四十七年　[寛文]九百四十八年　[寛文]九百四十九年　[寛文]九百五十年　[寛文]九百五十一年　[寛文]九百五十二年　[寛文]九百五十三年　[寛文]九百五十四年　[寛文]九百五十五年　[寛文]九百五十六年　[寛文]九百五十七年　[寛文]九百五十八年　[寛文]九百五十九年　[寛文]九百六十年　[寛文]九百六十一年　[寛文]九百六十二年　[寛文]九百六十三年　[寛文]九百六十四年　[寛文]九百六十五年　[寛文]九百六十六年　[寛文]九百六十七年　[寛文]九百六十八年　[寛文]九百六十九年　[寛文]九百七十年　[寛文]九百七十一年　[寛文]九百七十二年　[寛文]九百七十三年　[寛文]九百七十四年　[寛文]九百七十五年　[寛文]九百七十六年　[寛文]九百七十七年　[寛文]九百七十八年　[寛文]九百七十九年　[寛文]九百八十年　[寛文]九百八十一年　[寛文]九百八十二年　[寛文]九百八十三年　[寛文]九百八十四年　[寛文]九百八十五年　[寛文]九百八十六年　[寛文]九百八十七年　[寛文]九百八十八年　[寛文]九百八十九年　[寛文]九百九十年　[寛文]九百九十一年　[寛文]九百九十二年　[寛文]九百九十三年　[寛文]九百九十四年　[寛文]九百九十五年　[寛文]九百九十六年　[寛文]九百九十七年　[寛文]九百九十八年　[寛文]九百九十九年　[寛文]千年　[寛文]千一年　[寛文]千二年　[寛文]千三年　[寛文]千四年　[寛文]千五年　[寛文]千六年　[寛文]千七年　[寛文]千八年　[寛文]千九年　[寛文]千十年　[寛文]千十一年　[寛文]千十二年　[寛文]千十三年　[寛文]千十四年　[寛文]千十五年　[寛文]千十六年　[寛文]千十七年　[寛文]千十八年　[寛文]千十九年　[寛文]千二十年　[寛文]千二十一年　[寛文]千二十二年　[寛文]千二十三年　[寛文]千二十四年　[寛文]千二十五年　[寛文]千二十六年　[寛文]千二十七年　[寛文]千二十八年　[寛文]千二十九年　[寛文]千三十年　[寛文]千三十一年　[寛文]千三十二年　[寛文]千三十三年　[寛文]千三十四年　[寛文]千三十五年　[寛文]千三十六年　[寛文]千三十七年　[寛文]千三十八年　[寛文]千三十九年　[寛文]千四十年　[寛文]千四十一年　[寛文]千四十二年　[寛文]千四十三年　[寛文]千四十四年　[寛文]千四十五年　[寛文]千四十六年　[寛文]千四十七年　[寛文]千四十八年　[寛文]千四十九年　[寛文]千五十年　[寛文]千五十一年　[寛文]千五十二年　[寛文]千五十三年　[寛文]千五十四年　[寛文]千五十五年　[寛文]千五十六年　[寛文]千五十七年　[寛文]千五十八年　[寛文]千五十九年　[寛文]千六十年　[寛文]千六十一年　[寛文]千六十二年　[寛文]千六十三年　[寛文]千六十四年　[寛文]千六十五年　[寛文]千六十六年　[寛文]千六十七年　[寛文]千六十八年　[寛文]千六十九年　[寛文]千七十年　[寛文]千七十一年　[寛文]千七十二年　[寛文]千七十三年　[寛文]千七十四年　[寛文]千七十五年　[寛文]千七十六年　[寛文]千七十七年　[寛文]千七十八年　[寛文]千七十九年　[寛文]千八十年　[寛文]千八十一年　[寛文]千八十二年　[寛文]千八十三年　[寛文]千八十四年　[寛文]千八十五年　[寛文]千八十六年　[寛文]千八十七年　[寛文]千八十八年　[寛文]千八十九年　[寛文]千九十年　[寛文]千九十一年　[寛文]千九十二年　[寛文]千九十三年　[寛文]千九十四年　[寛文]千九十五年　[寛文]千九十六年　[寛文]千九十七年　[寛文]千九十八年　[寛文]千九十九年　[寛文]二千年　[寛文]二千一年　[寛文]二千二年　[寛文]二千三年　[寛文]二千四年　[寛文]二千五年　[寛文]二千六年　[寛文]二千七年　[寛文]二千八年　[寛文]二千九年　[寛文]二千十年　[寛文]二千十一年　[寛文]二千十二年　[寛文]二千十三年　[寛文]二千十四年　[寛文]二千十五年　[寛文]二千十六年　[寛文]二千十七年　[寛文]二千十八年　[寛文]二千十九年　[寛文]二千二十年　[寛文]二千二十一年　[寛文]二千二十二年　[寛文]二千二十三年　[寛文]二千二十四年　[寛文]二千二十五年　[寛文]二千二十六年　[寛文]二千二十七年　[寛文]二千二十八年　[寛文]二千二十九年　[寛文]二千三十年　[寛文]二千三十一年　[寛文]二千三十二年　[寛文]二千三十三年　[寛文]二千三十四年　[寛文]二千三十五年　[寛文]二千三十六年　[寛文]二千三十七年　[寛文]二千三十八年　[寛文]二千三十九年　[寛文]二千四十年　[寛文]二千四十一年　[寛文]二千四十二年　[寛文]二千四十三年　[寛文]二千四十四年　[寛文]二千四十五年　[寛文]二千四十六年　[寛文]二千四十七年　[寛文]二千四十八年　[寛文]二千四十九年　[寛文]二千五十年　[寛文]二千五十一年　[寛文]二千五十二年　[寛文]二千五十三年　[寛文]二千五十四年　[寛文]二千五十五年　[寛文]二千五十六年　[寛文]二千五十七年　[寛文]二千五十八年　[寛文]二千五十九年　[寛文]二千六十年　[寛文]二千六十一年　[寛文]二千六十二年　[寛文]二千六十三年　[寛文]二千六十四年　[寛文]二千六十五年　[寛文]二千六十六年　[寛文]二千六十七年　[寛文]二千六十八年　[寛文]二千六十九年　[寛文]二千七十年　[寛文]二千七十一年　[寛文]二千七十二年　[寛文]二千七十三年　[寛文]二千七十四年　[寛文]二千七十五年　[寛文]二千七十六年　[寛文]二千七十七年　[寛文]二千七十八年　[寛文]二千七十九年　[寛文]二千八十年　[寛文]二千八十一年　[寛文]二千八十二年　[寛文]二千八十三年　[寛文]二千八十四年　[寛文]二千八十五年　[寛文]二千八十六年　[寛文]二千八十七年　[寛文]二千八十八年　[寛文]二千八十九年　[寛文]二千九十年　[寛文]二千九十一年　[寛文]二千九十二年　[寛文]二千九十三年　[寛文]二千九十四年　[寛文]二千九十五年　[寛文]二千九十六年　[寛文]二千九十七年　[寛文]二千九十八年　[寛文]二千九十九年　[寛文]三千年　[寛文]三千一年　[寛文]三千二年　[寛文]三千三年　[寛文]三千四年　[寛文]三千五年　[寛文]三千六年　[寛文]三千七年　[寛文]三千八年　[寛文]三千九年　[寛文]三千十年　[寛文]三千十一年　[寛文]三千十二年　[寛文]三千十三年　[寛文]三千十四年　[寛文]三千十五年　[寛文]三千十六年　[寛文]三千十七年　[寛文]三千十八年　[寛文]三千十九年　[寛文]三千二十年　[寛文]三千二十一年　[寛文]三千二十二年　[寛文]三千二十三年　[寛文]三千二十四年　[寛文]三千二十五年　[寛文]三千二十六年　[寛文]三千二十七年　[寛文]三千二十八年　[寛文]三千二十九年　[寛文]三千三十年　[寛文]三千三十一年　[寛文]三千三十二年　[寛文]三千三十三年　[寛文]三千三十四年　[寛文]三千三十五年　[寛文]三千三十六年　[寛文]三千三十七年　[寛文]三千三十八年　[寛文]三千三十九年　[寛文]三千四十年　[寛文]三千四十一年　[寛文]三千四十二年　[寛文]三千四十三年　[寛文]三千四十四年　[寛文]三千四十五年　[寛文]三千四十六年　[寛文]三千四十七年　[寛文]三千四十八年　[寛文]三千四十九年　[寛文]三千五十年　[寛文]三千五十一年　[寛文]三千五十二年　[寛文]三千五十三年　[寛文]三千五十四年　[寛文]三千五十五年　[寛文]三千五十六年　[寛文]三千五十七年　[寛文]三千五十八年　[寛文]三千五十九年　[寛文]三千六十年　[寛文]三千六十一年　[寛文]三千六十二年　[寛文]三千六十三年　[寛文]三千六十四年　[寛文]三千六十五年　[寛文]三千六十六年　[寛文]三千六十七年　[寛文]三千六十八年　[寛文]三千六十九年　[寛文]三千七十年　[寛文]三千七十一年　[寛文]三千七十二年　[寛文]三千七十三年　[寛文]三千七十四年　[寛文]三千七十五年　[寛文]三千七十六年　[寛文]三千七十七年　[寛文]三千七十八年　[寛文]三千七十九年　[寛文]三千八十年　[寛文]三千八十一年　[寛文]三千八十二年　[寛文]三千八十三年　[寛文]三千八十四年　[寛文]三千八十五年　[寛文]三千八十六年　[寛文]三千八十七年　[寛文]三千八十八年　[寛文]三千八十九年　[寛文]三千九十年　[寛文]三千九十一年　[寛文]三千九十二年　[寛文]三千九十三年　[寛文]三千九十四年　[寛文]三千九十五年　[寛文]三千九十六年　[寛文]三千九十七年　[寛文]三千九十八年　[寛文]三千九十九年　[寛文]四千年　[寛文]四千一年　[寛文]四千二年　[寛文]四千三年　[寛文]四千四年　[寛文]四千五年　[寛文]四千六年　[寛文]四千七年　[寛文]四千八年　[寛文]四千九年　[寛文]四千十年　[寛文]四千十一年　[寛文]四千十二年　[寛文]四千十三年　[寛文]四千十四年　[寛文]四千十五年　[寛文]四千十六年　[寛文]四千十七年　[寛文]四千十八年　[寛文]四千十九年　[寛文]四千二十年　[寛文]四千二十一年　[寛文]四千二十二年　[寛文]四千二十三年　[寛文]四千二十四年　[寛文]四千二十五年　[寛文]四千二十六年　[寛文]四千二十七年　[寛文]四千二十八年　[寛文]四千二十九年　[寛文]四千三十年　[寛文]四千三十一年　[寛文]四千三十二年　[寛文]四千三十三年　[寛

之月小弓を以て　還御　同年七月尾張国名護屋城を築き　同年七月丹波国亀山城営築　同年八月廿八日琉球国尚寧始て入朝　慶長十六年　伊達政宗胸を遣わし千金方を勧む　慶長十六年　同年正月十二日　後水尾院即位　後陽成院第三皇子　諱政仁　同年閏七月廿日　正親町天皇崩御　同年八月廿七日　後陽成院譲位　同年正月十二日　後水尾院即位　後陽成院第三皇子　諱政仁　同年閏七月廿日　正親町天皇崩御　同年八月廿七日　後陽成院譲位　六月　禁裏　禁中並公家諸法度　慶長十七年　正月　禁中並公家諸法度　慶長十七年　正月　武家諸法度　慶長十七年　正月　武家諸法度　慶長十七年　正月　武

伊勢の
ことを

月十九日御見出発途月八月四日江戸還御月廿四日落ちの法制を定らる月年十二月廿
六日月廿七日大坂出陣流士別後を乱され是日或れ妙泉或は放放あり是年柳営年中行事の抜を
定らる為代年号を小西月
勅日二日六日出宋帝の子を付出給仕小流大史元帝衣裝宋晩の少日小一元長稽の二月三日出仕元長稽の
江月勅日より給是判長七晩鶴度樽又月又日深惟子長稽准之六月十六日出嘉祥七月七日伺候子長稽准之
八勅出出分杉紙を稽是月但氏子衣服上出者力杉紙を上九月勅日より八日を給是用
月九日深小祝月十日鶴度出敷免長九月勅日九日長稽是月十月長稽出て令長稽是分と是ども

元和 二年二月
勅日 東照宮出小例江より駿府出発月二日申刻是月年江月廿二日久能山出御へ出系清
月年又月小旬鶴出治要両版勅月年又日石より二方石之の軍役を定らる是年久能山出宮社
洋及本地堂出供所楼門考居小出速之是年江戸神田川を繋て堤を築る月年十月石巻を
て駿府小到らしめ出文庫の出出籍紙多て尾張紀伊水戸三家小渡る月二年 初て日光山出速之
江月日光出出系宮月年六月出上落月十八日
光 城出礼是年紀義出辺外廓門堰速月年十月八日日光の四記と希世の古おい江戸出文
庫に収らる 是長年後小以月日を記廿反考る小上田長次郎る月年以元和二年辰十月八日とあり是に上る出代年十月駿府なり出出
勅を説ぶ小て府の後月月
分出文庫へ納しめ小ぶるなり

元和 又年出上落九月廿日 還御月年十月日光出出系宮

元和 六年

二月大坂城石垣出築造月年四月江戸城出夜ち出築造する月年六月十八日宋帝の娘実
入内 出入内女御月九年十二月十九日出発 四日院降 延是より玉母前と称する是小元年十月廿日立中宮
月六年十月九日宋帝門院称と 是年出城小之九速 是永江戸長を桜小竹橋出門ち孫の大納言忠
称する 延宝六年六月十九日崩 七十二
元和 之年後別小流城十二万石後志伊出紀小流叙任小あり元月九年七月廃之後中納言紀伊小流
又十又万石月三年八月後大納言月七年故ち元甲別へ出移月九年十二月六日月小大名ち小
逝 去 元和 七年十月 後水尾帝より勅版宋勅鄭苑を賜ふ 御幸小於て今宮院ことを
二十七
讀むおこの事の定基入道寂照入宋して宋帝に宗教せてまて多を改百年の忍恵を出
感あり 元和 八年四月是光出出系清月月廿三日出出城へ出移徙 元和 九年二月十日尾張徳川
月二日出城へ出移徙 元和 九年二月十日尾張徳川
として江戸出発ち六月出入洛ち軍機を 家光公へ出張の為小依てなり月七月十六日二条城へ
入御 或云月廿七日 楽程出発 月廿七日是より
十二月 日 格て小十人組の出既を定小 年家元和二年出小姓組へ組頭へ一人ゝ之作ち小十人元を当
元ちく出出の日大勢出 百出小十人の出出之分 弥ち 姓切と出死付る月九年又月今出出 上様出上洛ち出出の
出出院の組頭元列当月出出ちり小十人元出出支死中小於れ出出供の略次斗大勢ち也猶もいろ〻出出ち

小十人
既出

台

[illegible]

月　出羽九郡ヲ小十人組歯医師人ニ被宗旨帰依ニ付[illegible]

[illegible]ニ付[illegible]ハ出羽元ハ古ヘ[illegible]ハ世ハ　十二月廿日伊達政宗ガ宅ヨリ　浜市ヲ[illegible]城ヲ壊

[illegible]ニ浜城ヲ築ク　寛永元年二月六日水戸彰房ヲ[illegible]

彰宣ヲ[illegible]　二月二条ニ城ニ[illegible]　浜市ヲ[illegible]ハ水戸彰房ヲ義堂和尚ヲ[illegible]

今東武実録ニ西丸ハ伊達城ヲ引移サレ[illegible]　浜ニ西丸ハ　或云西丸ハ伊達城ヲ引移サレ[illegible]

陣[illegible]ハ[illegible]戦場ノ例ニ[illegible]　東武実録ニ[illegible]

[illegible]　二月廿日浜ノ中納言ハ[illegible]ノ屋形ニ　浜市ヲ[illegible]ハ尾張義直ヲ水戸彰房ヲ[illegible]

月ニ月八日尾張屋形ニ　浜市水戸彰房ヲ丹羽長重義堂ヲ[illegible]ハ上洛

月八月九日大御所ニ[illegible]ヘ　浜市浜ノ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]　寛永二年二月廿七日紀伊屋形ヘ　浜市ヲ[illegible]ハ水戸彰房ヲ義堂ヲ[illegible]

[illegible]ニ[illegible]　浜市ヲ[illegible]　浜市ヲ[illegible]

[illegible]　大御所ノ上洛

[illegible]ニ[illegible]　六月廿日ニ入洛　七月二条城ニ止宿　八月九日　大御所ノ浜ノ城中　上洛　八月十日　[illegible]　浜市ヲ城中　上洛　八月十日　[illegible]　大御所ノ[illegible]　寛永元年十月江戸ヘ　還御　寛永四年二月二日浜ノ屋敷形ヲ　浜市ヲ[illegible]ハ水戸彰房ヲ丹羽長重義堂ヲ　浜市ヲ[illegible]ハ水戸彰房ヲ義堂ヲ　二月二日尾張屋敷形ヲ　浜市ヲ[illegible]ハ水戸屋敷ニ　浜市ヲ[illegible]ハ尾張義直ヲ[illegible]

家義ヲ　七月廿四日浜ノ屋敷ヘ　浜市ヲ[illegible]　寛永　八年二月

廿日尾張屋敷形ヲ　浜市ヲ[illegible]ハ水戸彰房ヲ　二月十日尾張ヲ世界ノ[illegible]ヲ上

世ラル　[illegible]　行幸言　月六月廿六日ヨリ出ル　[illegible]ヲ　[illegible]軍家ヲ西丸ヲ　浜市ヲ寛永[illegible]年[illegible]月

[illegible]日出羽間ノ例ヲ出羽国処ヲ違ラル出羽ハ[illegible]ノ耕地ノ[illegible]ヲ　寛永　九年[illegible]月ハ不[illegible]

[illegible]軍家日ク西丸ヲ　浜市ヲ[illegible]ノ家ヲ執政[illegible]　城ヲ廿日成[illegible]浜市

[illegible]　葬送　二月廿二日　勅使　[illegible]　[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]　[illegible]軍家ハ[illegible]ヲ[illegible]

[illegible]

也遂今を稱し又は自滅を稱す　▲御產所は稱中納言長政々息女（織の小袿に織る井伊掃部頭直孝の母）は母は織田右府（信長）の妹　御產所は淳は達子（武家に於て之を稱）後年大御所と稱し奉る豊臣太閤秀吉の妻は是なり又は文祿元年九月廿七日御入城（入樂寺殿）永三年九月十日薨御年卒　元和元年十二月從一位を贈られ九年九月に父長政公と共に位中納言を贈られ

大猷院殿御世

家光公に事へ　右德院殿に猶男に母堂は豊臣秀吉公養女（実は織田信長公納言滝川）

井伊掃部頭直孝　寛永元　九年七月十七日江戸西丸に於て誕生　（幼名竜力源井右近左衛門尉）　竹子代君と奉稱　同年十月

台命を以て世嗣に定まる　寛永元　九年九月　光長卿と奉稱　（寛永元年十一月　右京亮に從四位下に叙）　元和三年十一月

廿一日西丸に於て從　元和六年正月廿日西丸に於て正三位に叙　十一月　大納言宣旨　同年

九月七日に名を改む　家光公　（武家諸法度に元和元年伏見城に於て二條城に於て大納言に叙）　光長卿に稱　（光長卿は名を改め戸澤氏に名乘る）　光長卿

（今宛院殿の號は右大將殿と稱し奉る後に光長卿と稱し奉る）　同年九月　光長卿に名乘る　元和元年

同六月廿六日に於て　（今宛院殿の年號元和元年）　光長卿

四月に是は家光岡の字は初は家より出る大家の二つ打ちしてまるく大家は二つ打ちしてまるく大家は出る清者也と
又元年九月の法度に史は元和元年伏見の城に於て元和と稱するものなれば公は非也とのべ井伊直孝の
母は元和元年に於て出家し法名を宗源と稱し奉る　（大納言綱吉卿の母は桂昌院と稱し奉る）　（大納言綱吉卿の母は桂昌院と稱し奉る）
高貴の人は後に其人の年號を稱し奉る公家は未考　十月武州川越城に於て薨去　元和八年に月光
山に於て年号九月十五日に禮を初　元和九年三月十日第六代大將に任ず　同年四月月光山に於て
年号七月に至る同月廿三日に御年六　光市同月廿七日に
軍澤和野等を攻撃別當源氏長六左右に監牛車を使を賜ら甘の人（伊達氏家勅使に於て出羽に
御入城　同廿八日　出羽國　同年八月九日に軍を下に於て出羽國に
之出羽方に於て　（同十日に奉城に於て出羽に）　十二月　十日に
十二月奥州伊達政宗の跡を継ぎ　（寛永元年）　二月　（元和十年に月号改元）　元年正月廿七日　大御所様より出羽に
兵庫頭に叙あり　後に出羽守に任ず　（大御所様は出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）
座形に　濃州に　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）
言報あり　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）
後を去別合を　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）
月十日西丸より　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）　（出羽に）

朝鮮禍侵寇　城四礼芝年貢を村小弟勇堂八丁堀彩地小夫叢ゑ之芝年孫士の武然
四改　寛永二年二月十八日川越(四郎兵衛)出仕宗十月晦日年礼班四物四浜地ゆて孫四ッ四対面　寛永三年正月朔日飛丸ま　濱御屋
四要之間小於て　大津所(四対新兼初て於一ゆ人三月廿五日人命し一ゆ新字抄を選せ也
月日光也　四年清水月内麦左ゆ改ゆ沈上亭へ　濱御屋三月廿五日光也
孫ゆ法解を撰せ也月六月三器法解を撰せ也書入法の要旨を標して芝を
献上月年八月四上洛月月十二日　四年内月十八日従一位左大臣九月六日ゆ上　濱水尾院二条城へ
沙華七日　楽器法八日　和ゆ四ゆ式日　右徳ゆ　大納ゆ和ゆ式ゆ泳せらる　寛永沙華記数竹　奏聞　年
九日四献奥沙十日　還幸月年十月九日　江戸　遷御芝年ゆ二条城在番　九日四大四番芝を勤
月十二年　大四番十二組と数ゆ月十二年　番四二人を隔らる　寛永四年二月二日　清巣四献番ゆ九月朔日
上飛　御宮法堂造営献月十七日四遷宮芝を東叡山寛永ゆ日頓院と号ス　寛永五
年正月日光也　四仕宗十月六日尚寅夜飛丸四花御番水井伝法ゆ組行村孫九郎右衛門切殺

二条在番

浄土宗

献徳

二十四

殺害ゆ　殺害ゆ逆ゆ孫九郎逆ゆ伝法ゆ
閉夜と数ゆ猶の村ゆ久左ゆ　ゆ法ゆ底平数新ゆ
番ゆ我桂左ゆ　ゆ人ゆ　ゆ孫九郎捕押ゆ
ゆ　ゆ法ゆ限生　四寛四感之上　ゆ下孫九郎ゆ月月十三日
永井伝法ゆ宅ゆ　ゆ切腹ゆ　寛永六年正月ゆ別松山ゆ鮮盗千余人蜂起ゆ城を備生ゆ飛ゆ右勢ゆ発ゆ
討平ゆ二月四疱瘡月年四月日光也　四仕宗月年九月六日武家法法令　作四月月法令
須布せらる月年十月朔日　後水尾院譲位　後水尾法辯参内　此年始て江戸武家参小法辻
番所を　寛永七年二月廿七日武州水尾谷へ　光也名村長六月沙参小
四狂ゆ四沙稲葉丹後ゆ四揚ゆ宅へ献小　濱御屋三伝酒菓を献上ス六月十日流涙ゆ宅
城四礼七月三日女院明御中和門院と号ス九月十二日　明正院ゆ即位　後水尾院第二皇女　御母子
ゆ井利勝を為四使者ゆ京都所司代板倉周防ゆ宗家士卒を指揮して法中を警衛ス芝年及ス
物殿ゆ作ゆ和ゆの図記を造て献上ス芝年ゆ長崎ゆ於て船来の書籍の内耶蘇教法の
を禁せらる芝を禁ゆ出ス　長崎四記歌仕巴人利瑪竇ゆ作　三十二種　千代教法の
二月門献ゆ四蛮船月十九日江戸　四城を警ゆ所ゆ　濱御屋ゆ月九日尾張家飛小

[illegible]

[illegible]

[illegible]

大坂及畿内の出来事

沙當家大坂城　此城の始也八月三日於西川出羽守佐竹義宣
此出来事

[illegible]鹿丁に作分法大名（此料所に非ずして月十二月廿日始て出書紙幸の人に作分
[illegible]六年六月江戸に誠[illegible]
十六年八月此城を上の時出来[illegible]
記を他らしむ[illegible]
[illegible]料所に非ず一人[illegible]
を作る　此後小倉小六月廿日　此上落と云江戸　此発[illegible]
月　此上落十日　此年閏廿三日江戸西丸炎上　酒井雅楽頭忠世が屋敷より出火[illegible]
[illegible]
[illegible]中より月月京都町人小浪[illegible]月[illegible]八月　[illegible]
[illegible]を発[illegible]せらる八月廿日江戸　還幸月廿九日[illegible]
和漢法制[illegible]を撰上せしむ月二月九日[illegible]

西丸炎上

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]るどの武人は[illegible]
[illegible]
[illegible]

纂に渡る　此夢想を以て四人を召し　作分　二人を平五郎信家の一族なり　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　

代乗房大徳及其命を受て撰上る月十二月廿六日なり是の歌の序に依て撰せしめらる
号て正保古今集と云今此文庫に現在と云 大内裏井上流後宮之歌数おのゝ撰載うせ今
大猷公治世異記に載せ氏内の業おのゝ解を
門葉記に如す 正保 三年二月廿六日東川出奏に 海内外出方
大内氏女 猶
定光院殿に年分記遊
猶月漢院殿葬礼重院 同三月十日海月の歌を丹のぬく光を失ふ月月老を法解奏を
撰せしめらる 此月廿三日 美濃国元孫及其作
元孫使及其作
使帝記と見る 同月十六日堀田正盛の邸に於て歌の座あり 同
月日光山神廟に詣る 東照宮位の文を定さしめらる 尾張義直卿も又勅文
を献せらる 及其年隔に二年有 有考 東照大神宮位次第尾張義直卿献文及其献
を事役其計池殿記久能山写を
尾金倫脱考 台徳院殿位記宣旨 源実朝と云 宣旨同九日 光逢 足利門堂
公海写非序不審 改大臣 久能山写 宣旨八通而以到大機今
勅使兼亭大納言経雲卿奏 補不足而 東照神天位宣旨 ニ今冬 牧平伊豆守
殊受密 旨 東照神天位宣旨 文与社 差別 及其献勅文 後酒井讃岐守 依命秉筆 再密使及
其樂 殿密 秘敬使 重被問 ニ 及 ニ 経雲卿
為勅使密 日光山有改 東照社号 宣旨 ニ
為密へ 源門 ニ月 月 日出 日 源門 堀田正盛 ニ 東照宮の御家
為海又正盛 亭へ 源門 月 海 日 東川 東海 ニ 源門 堀田正盛 ニ
又東川海上光大猷 ニ 世 光

日光伊勢
御幣使
使ぬ

上 ニ
わり 是年小笠原右京亮政信 ニ 作 ニ 因て家伝元孫の記を記して奏する 小笠原家伝
年々 林 裡 ニ 於て 毎年 伊勢 日光 年幣使 ニ ニ
十六日 ニ 是年 ニ 曲 ニ 江戸 ニ ニ 在 ニ の ニ ニ ニ
徳松君生 綱吉公 世紀 ニ 出 ニ 月十七日 桂現 椿山 年 ニ 尾張 亜相 ニ ニ
御誕 出 ニ の 剃 ニ 白 ニ 出 ニ ニ 頂戴 ニ 御年 ニ 御官へ 孝 ニ ニ ニ の 有 ニ 紀 ニ
ニ ニ へ 作 ニ 出 ニ 記 ニ 桂 ニ 椿 ニ 年 ニ 尾張 亜相 ニ ニ
ニ 年 ニ 城 ニ 紀 ニ 御官へ ニ 年 ニ 一 尾張
亜相退 出 一 ニ 上 ニ 紀 ニ ニ 御官へ ニ 年 ニ 一 尾張 ニ ニ
ニ 白 ニ 院 ニ ニ ニ ニ 年 ニ 後 ニ 年 ニ 尾張 ニ ニ ニ ニ

[illegible]

全く亦不能写之七略呪詛夜叉家之名 [正保] 二年二月十六日夜月よ暈あり[illegible]日の彩のやうなり

[illegible]月記[illegible]年月八記て[illegible]の月彩八月廿六日小風烈吹[illegible]

[illegible]

出羽国赤坂出内井伊直孝ガ下屋敷小 浜市月六月十三日江戸大地震 浜市城[illegible]大破

彼岸月六月十三日 将軍家尾張殿紀伊殿水戸殿四月[illegible]

[illegible]月七月十二日 播磨国[illegible] 市[illegible]九[illegible]

十三日[illegible]村小於て大逆死 上[illegible] [寛文] 元年正月十日 [illegible]

国正月十七日 松平[illegible]中[illegible]内記と[illegible]大樹[illegible]に参る

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出葬選 [illegible]

○

嚴有院殿御世　家綱公の事ハ　大猷院殿の嫡男の御母堂ハ美濃の太守利長女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

西九条殿

幼君小勅一巻 [illegible] 改要流弾 [illegible] 月十日 [illegible] 西九条殿 [illegible]
[illegible] 長年小条西房流出の [illegible] 及び [illegible] 安年と所業院との [illegible]
の用法を考索し出藩或は本号を他アて勅上及び

玉川上水

兼倉 元年 [illegible] 月十八日改元 正月十日 [illegible] 院
の四絹あり [illegible] 院

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明の後陽元長後小
条り今年一ヶ年建 是年小条安房ヶ正房 作小後て城判の後景を新も 暦 二年正
月廿二日 後西院即位 後水尾院第六皇子 望み出御 良仁 六月比月七日比鹿嶽山頂湯山祝祭月月廿日
山神祭月五月廿六日 清井寺後ヶ平延の亭へ 市祭 清後ヶ山ヶ方ヶ時後十郎之清盛
主て出産山 櫻物 家津代令 七十五歳 歌仙形ヶ 後法皇後年 云為家手 書物 秀吉公代界ヶ 歌ヶ 後別撰集後
去法皇ヶ山上坂上沈 院日記 藤ヶ文集 冥途記の後小 大君 幕下 差能ヶ 神君武功
ヶ勅勞 年齢久而 慮向 未ヶ人ヶ 此事 考 後羽林 報ヶ 所見 安且 弱為 初小 流及 奏
者ヶ 不 後云乃 後 ヶ 去及 去 安 以 纂 記ヶ 有上下巻 号曰 冥途 合 戦 指 来 記 御 京 深 井
行 後 ヶ 冥 京 山陣 ヶ 安 後 小 代 ヶ 六 来 ヶ 後 京 ヶ 紀 孫 ヶ 后 不 得 小 後 ヶ 来 ヶ 永 遠 ヶ 後
後小 記し 安ヶ 山 ヶ 後 ヶ 人ヶ 後 後 小 後 ヶ 冥 京 後 来 記 知 来 小 北 日 ヶ 后 後 後 小 ヶ
勇 家 山 山 ヶ 後 後 ヶ 後 ヶ 後 ヶ

[illegible]

四月二日に大風洪水四月疫癘[illegible]年九月廿日に造宮使[illegible]

九月に移徙四年始て内裏に[illegible]

宮[illegible]

[寛治]三年六月連日大風洪水四月十日大雷[illegible]

年七月十日相撲[illegible]

徒人小判子[illegible]

[illegible]

[illegible]

樂人ホ日光ヨリ向ル法ヲ除テ江戸ヨリ来向ル者ハ
市自出院ヨリ拾人ヲ以テ俗人番樂ニ代ラシムベシトイフ 同廿七日三百義家法法
家法 修行式目殉死ハ制禁法 仰出ル八月廿日
乃武蔵ニ石掛義光ヲ平ラ〳〵風俗ヲ乱ラシムル
水除被換 同七月廿日 服夷奴蛮人地震 同九月廿九日 蒙猛 独学 接ル
家元 来向 同十月朔日 花井家蹴鞠 上洛 同十二月六日 京都大地震
同廿三日 林三郎 学士ノ号ヲ給ハル 制法ヲ
与ル 作法 作法 作法

又是会之[illegible]奥亞洲[illegible]之[illegible]城儀と因し[illegible]
校を編ふとの西愛[illegible]東[illegible]八二十年ふたる[illegible]
同十二月廿三日文陳を[illegible]英金及時拔を編ふ[illegible]
幸勇せ[illegible]るのを[illegible]
[illegible]文陳[illegible]
[illegible]
[illegible]

旨春秋に命せてる國史編目録世百年の事徳老列望久和牧伯　矢倉田國史編不改徹之以不為学業
幾墨備墨之如三百所改國史編之日伊可伯有之所之所九十余日伊可伯有之所之所之所之所之所之
九千余日伊可伯有之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所之所

寛文十一年三月廿七日　構別大風洪濤多死沒溺死数没溺死多

松平陸奥守様御家老中列望吟味人原田甲斐宗重ニ伊達安芸を切殺ス事ニ依酒井雅楽頭様ニ伊達安芸を切殺ス事ニ依酒井雅楽頭様ニ

伊達安芸殿ハ家老原田甲斐ニ切殺ス事ニ依テ酒井雅楽頭様ニ伊達安芸殿ハ家老原田甲斐ニ切殺ス事ニ依テ酒井雅楽頭様ニ

圖絵を進献せらる。[illegible]八千冊[illegible]百川学問二千[illegible]冊[illegible]百川学問二千[illegible]冊三戈[illegible]
[illegible]冊を進せらる。又吉良[illegible]日記[illegible]を載す。延宝六年六月十四日女院御所崩御。故大相国[illegible]
[illegible]年七十二。同七月十八日伊与法[illegible]
[illegible]大風洪水。同九月十日十六日[illegible]
[illegible]冊[illegible]十二巻を献ず。[illegible]
同抽物三巻。延宝七年二月加茂両社河合社[illegible]
縁起図備[illegible]。[illegible]
日光[illegible]
同月[illegible]十物度[illegible]。同三月築地西本願寺[illegible]
同世日水戸[illegible]光[illegible]編集[illegible]補紀補闕一冊一代要記十冊技業拾葉集三十三冊を
献せらる。[illegible]技業拾葉集一部の事のことを記せり。同[illegible]十日御出[illegible]
六日東叡山より華送。延宝六年六月[illegible]物遥厳有院殿御正位大相国
[illegible]御墓所
[illegible]。[illegible]
二年九月[illegible]日　御法華[illegible]

[illegible]日薨。[illegible]年三十七。成二十八。同九日東叡山より華送。高厳院殿と称奉る。同[illegible]年八月[illegible]従位を[illegible]

○常憲院殿御世　綱吉公御事也　大猷院殿[illegible]男[illegible]
[illegible]
[illegible]。正保三年[illegible]月八日於御本丸
[illegible]。慶安元年九月[illegible]
[illegible]。正保[illegible]年十月[illegible]。慶安元年九月[illegible]
[illegible]。慶安[illegible]年[illegible]月[illegible]
[illegible]。慶安三年[illegible]月[illegible]
[illegible]。同十二月十三日[illegible]
[illegible]。承応二年八月十
九日[illegible]。[illegible]
明暦三年[illegible]月十九日[illegible]
[illegible]。同[illegible]月[illegible]
[illegible]。万治三年[illegible]月十日[illegible]
九日上州[illegible]。[illegible]
[illegible]。寛文元年壬八月

二年十二月十八日に系譜を挑せらる 寛文 三年五月光保朝臣に後府を長鉞林塘に初めて
入る 寛文 四年九月十八日に將軍 延宝 五年四月十五日將軍薨去 延宝 七年六月六日徳松君薨去
（博士の九年七月十八日紀伊守綱吉薨去 元年四月十二日逝去 明信院 厳有院薨去 博士に別書 延宝 八年五月六日 厳有院殿不例に渡り
逝去 清徳院 厳有院薨去 博士に別書 延宝 八年五月六日 厳有院殿不例に渡り
移 神田に殿に移る 延宝 八年五月六日 厳有院殿不例に渡り 神田に殿に移る 延宝 八年五月六日 厳有院殿不例に渡り
月六月廿六日 厳有院殿に法号を奉る 永井信濃守尚政和歌を嗜む 延宝 七年五月廿六日 厳有院殿に法号を奉る
月三十二日 石内蔵助家を去る 廿六日に法号を奉る 永井信濃守尚政和歌を嗜む
一分を切る 養子を取る 和歌を嗜む 延宝 七年五月廿六日 厳有院殿に法号を奉る
の後 [illegible] 延宝 七年五月廿六日 厳有院殿に法号を奉る
延宝 [illegible] 延宝 七年五月廿六日 厳有院殿に法号を奉る
月廿三日 [illegible] 延宝 七年五月廿六日 厳有院殿に法号を奉る
月廿三日 中代智仁親王 八月十九日 後水尾院 [illegible] 月十七日 [illegible] 月廿一日
月廿三日 中代智仁親王 八月十九日 後水尾院 [illegible] 月十七日 [illegible] 月廿一日
軍内侍 業房卿 清大将 淳和奨学両院別当 源氏長者 [illegible] 寮 [illegible] 監 [illegible] 車 [illegible] 兵技を
物 七月十八日 [illegible] 宣 下八月廿三日 内大臣 月九月十一日 林春斎 人見友元 [illegible] 経義を [illegible] 月両

相の寅時

三次 [illegible] 月十七日 春斎 [illegible] 月十日 [illegible] 月廿一日 [illegible]
て [illegible] 文庫 [illegible] 書目 [illegible] 月十日 [illegible] 牛 [illegible] 忠
[illegible] 晴四 [illegible] 考 [illegible] 献上 [illegible] 月 [illegible]
余書 [illegible] 二十余間の白亀中天に [illegible] 天和 [illegible] 月 [illegible] 元年二月 [illegible]
[illegible] 小学 [illegible] 月 [illegible] 月廿日 [illegible] 月 [illegible] 月 [illegible]
[illegible] 月 [illegible] 月 [illegible] 月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[徳]

[貞享]

[元禄]

[宝永]

[享保]

[享保]

又元孫中大納言一条に建立永徽山護国寺と云桂昌院の方に移し仏殿等像に安置堂宇の修造を
移さるると云ふ故に建立のいまだ成桂昌院の方に廟所の時宜を移し修理の事を移されし
て有りしも天下の人とも奇しとあるべきことを申せしに元孫中宮融和遊ばされし事なれども
格別事一家の事なれば又門跡潟為の事なれば建立律寺にて寺基を定め山と云門十八日護持院に
後門門主門前日記書を解を新迁一伊勢日光山主諸国東叡三縁寺山に納めらるる時侍従
合大為出羽守義近承つる門主一事被家僕よりの門主日小石川に殿に為成に孫寺院の遊客を招請する門
世日東叡山孔子堂に系統に縁に焼香に鄭沐浴に戴手に文庫入門に縁春為典
を進講を元禄文庫祝儀を勤む 元孫 二年壬正月十日山主孔子堂に系統に論語牧
後後の成員宅入門接局院教に同伴門三月世日東叡山孔子堂に系統門十二月世日
欲学方小村重子等名出 形部二百俵 作州侍従春二十人扶持 奥医師 義兼 儀に加勝 門十三人 観法寺 湯島見院
毎門教中に抹絵為に書を講を出仕を要を独学の法 侍従 今年六月に孫出院に 出門
侍従武文の為に勝のごとく一を二義である所を是 講しを
講を出仕山を是より後門毎日講義を講を出仕を
東水元年二月十日に孫出家 一つ今日より所の学問
講を武に教中講出の始を出家三年と云るものの此
幾日暮海等集百冊を献上を門七月九日聖堂を受せる松平右京亮輝貞侍

林京斎

常徳

題を新たに又講演始め孔孟に武に勇講に手伝 終門門古日系教及近代暴西洋
水山と最門世日桃政桃事の為に大学を進講後門一次昨次は門春を講せる是に講釈の
ふるる老侯に版に書を浮ふ門門世日芙蓉間法士法書改及布衣の有同を以て文武兼用とるべ
の実行宜く文乃ち声一学問を励むべしと云るを面除を主所仏文院学士林春
学小命一東京書院次間に於て講演講延を共ら主桃政桃事以下兼く独学を免
ら後門一次定例と 湯系氏日記の中に門次に講釈の始に日記は山次の為に 侍従 終門 東
桃政の為に 入門手 上意の桃政浮の為生来上刻に東山殿に次の為に仏文院学問 侍従 上意
門十二月十六日聖堂下系後坂向後昌平坂と唱名令せる元亜平坂門世日聖堂造営
早上棟秋元但馬守番頭に門世三日聖堂造営事形及に手伝は 湯系日記 に附
彼十隆次 元孫 二年正月祝田家は大聖殿造立成 三年七月九日造門
系代令十校松平右京亮 門十三日仏文院春乃ち東桃せ一の法大学と補せる迄大学改と改名せ一めるの
文学春稽一宗町家の門弟山の侍従と侍て絶の藩を講せ一ゆ一より歌令お改所く侍士三教制
製の形と改其家僕の士も改るを法さる一小学文の制外に及ぶ是かお侍く林門の侍る手田

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三月要を松平加賀守に賜ふ海保を講ぜしめ水戸中納言光圀に命じて大学を講ぜ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元禄十年乙丑二月廿六日付

[illegible]

元禄十年乙丑二月廿六日付

[illegible]

元禄十年乙丑二月廿六日付

[illegible]

[illegible]

元徳　十六年

[illegible]

元徳　十六年

[illegible]

元徳　十六年

[illegible]

元徳　十六年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

日林七三条地六日林百日右之奉宣旨之薄沢より在出仕
お伺ふ　仰出給ふ出仕期限とのふなり学力なく生涯お勤仕
同廿日　東山院崩御　同七月廿日京都及畿内近国大風民屋を破倒せり　同月若狭秋元但馬守
京都之仮御所　同月二日上列世良田長楽寺より宝義寺に有られ系図一巻を献ず　新撰武家の紀
て世良田より移し来りし世に世良田ふ仏寺此寺を
きたるきたりしまされしを七月廿九日より流行廿日をもてやめ
きり　同九月廿三日吹上に於て流れ鏑矢的射　上覧　同廿六日武徳
殿　参詣　同廿三日吹上に於て流鏑矢的射　上覧　同廿六日武徳
七年　同月八日薄沢殿に休息　同月十二日東山院崩御　九十　宝永
　　仰付手代時振を御小姓組
　　同月八日紀
　　仰付手代時振を御小姓組
　　同月八日紀

仰付　同月十六日武徳法度法度　仰出　代官に
　　同月乾金通用法　仰出　武家法度
　　同月十七日休息　同月十七日休息　同月薄沢殿
　　仰付手代時振を御小姓組
　　同月乾金通用法　仰出　武家法度
　　同月十七日休息　同月十七日休息　同月薄沢殿

武の法を倣め人倫を明らかにし風俗を正しくせ
ばなり　武家法度　一条　文

普請清書形式改格

御講釈終り五一昨日重雲八法名成ると仰て林大学頭より書物目録御覧一覧
一于朝勅上之日記同廿洛東春日山 東照宮ハ文ハ建立同十月廿一日ハ白書院ニ於て
舞楽 上覧同十月十日 中御門院御位ニ付山陵使ハ清華変化同十二日秋元但馬守喬元幷伊
勢守貞亨ハ掃部頭正順乗元ハ御番衆彩束無等再掃部頭ハ改束子成ル追遠
之儀ハ表向ハ御番之ハ御番ハ同廿二日幷伊豆守忠之ハ御番ハ
墨ハ乳貫永年中法国会議札書之儀ハ
仍三人法度之国書ハ上席ハ 仍幷 昭和六年九月六日上洛方ハ家ハ役ハ自筆ハ文殿尚下書ハ
同月ハ日ハ林長門ハ小納戸ハ松平右馬頭ハ御講釈
ハ林大学頭ハ論語講釈ハ 仍幷 早ハ時後二ハ中
尚書ハ和ハ講釈ハ 仍幷 同十六日ハ林七三郎中庸講釈ハ 仍幷
同七日儒者源ハ新左ハ三宅九十郎宝新助 仍幷 同廿二日ハ林百助講釈ハ 仍幷
仍幷時後二ハ中 同廿三日ハ三宅九十郎宝新助 仍幷 同廿六日ハ
仍幷時後二ハ中 同十一日儒者新井勘ハ地 仍幷 同十七日ハ林長

吟味役格

文

の間林大学頭講釈ハ 仍幷 ハ時後二ハ中 同廿日ハ林百助講釈ハ
仍幷 ハ時後二ハ中 ハ稽地三具衣ハ 同八月廿六日虎ハ生 ハ稽地三具衣ハ 同十月
九日ハ林長門ハ同林大学頭講釈ハ 仍幷 ハ稽地三具衣ハ 同十月朝鮮三使
聘同十二月朝日儒者後藤九郎左衛門ハ書物ハ毎日 ハ時後二ハ中
ハ同十一日ハ文殿ハ長年紀事ハ文殿ハ 正徳 二年
三月法別乃中務ハ貨殖ハ改定ハ東海道ハ
崩御 上西門院 同十九日万石ハ二の紙地ハ朱印ハ六月ハ林長門ハ
講釈ハ 仍幷 同十七日ハ林七三郎 同ハ文殿ハ籍
ハ従今年ハ出物等ハ曝涼ハ人参ハ 享保二年廃ス又ハ
織ハ生物ハ 享保二年ハ文殿ハ出物ハ
享保二年ハ文殿ハ出物ハ 同廿日ハ朝日ハ動 同九日ハ林長門ハ講釈ハ 仍幷

[illegible]

正徳 三年[illegible]月[illegible]日紀氏[illegible]抹七三郎[illegible]沢氏 仙台[illegible]

[illegible]

田潤郎[illegible]文庫の[illegible]出納と[illegible]庫の[illegible]移さる 尚[illegible]曝書の日[illegible]

[illegible]

[illegible]

佐渡国に改称

[illegible]

[illegible]

[illegible]

年月十日紀伊守従三位源頼宣卿薨 [illegible]

[illegible]年[illegible]月[illegible]日[illegible]出棺[illegible]十[illegible]日[illegible]遷[illegible]日[illegible]日[illegible]盛 有章院殿御遺言 [illegible]

▲御墓所 靈光院上皇宝永七年[illegible]月[illegible]日[illegible]

[illegible]

▲有徳院殿御世 若宮[illegible]

[illegible]

[illegible]

小華後文記の抜書

同九月十六日小宰相入道時盛石塔婆供養三千貫一院百間茶の出と等し同十月三日記考并出物

出　城殿家流鞠　上皇同廿七日始て御坊　御放生会の起事物を七年初始と八年とあるは誤なり同十月十六日流鏑

使宣　城殿礼　享保　元年三月十五日源三位生　温源氏源義業後裔源同廿三日俊盛長房卿盛長流

弦礼号馬の出物廿七疋を献上　上皇　俊盛卿　僧月六月廿七日始て小雪後支配と云事

小雪後支配　同六年二月十六日小雪後支配　俗名十二組　同七年二月十八日小雪後支配　俗名十二組

同八年二月十八日小雪後支配　俗名十二組　同九年二月十八日小雪後支配　俗名十二組

同十年二月十八日小雪後支配　俗名十二組　同十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二十年二月十七日支配　俗名十二組　同二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三十年二月十七日支配　俗名十二組　同三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同四十年二月十七日支配　俗名十二組　同四十一年二月十七日支配　俗名十二組

同四十二年二月十七日支配　俗名十二組　同四十三年二月十七日支配　俗名十二組

同四十四年二月十七日支配　俗名十二組　同四十五年二月十七日支配　俗名十二組

同四十六年二月十七日支配　俗名十二組　同四十七年二月十七日支配　俗名十二組

同四十八年二月十七日支配　俗名十二組　同四十九年二月十七日支配　俗名十二組

同五十年二月十七日支配　俗名十二組　同五十一年二月十七日支配　俗名十二組

同五十二年二月十七日支配　俗名十二組　同五十三年二月十七日支配　俗名十二組

同五十四年二月十七日支配　俗名十二組　同五十五年二月十七日支配　俗名十二組

同五十六年二月十七日支配　俗名十二組　同五十七年二月十七日支配　俗名十二組

同五十八年二月十七日支配　俗名十二組　同五十九年二月十七日支配　俗名十二組

同六十年二月十七日支配　俗名十二組　同六十一年二月十七日支配　俗名十二組

同六十二年二月十七日支配　俗名十二組　同六十三年二月十七日支配　俗名十二組

同六十四年二月十七日支配　俗名十二組　同六十五年二月十七日支配　俗名十二組

同六十六年二月十七日支配　俗名十二組　同六十七年二月十七日支配　俗名十二組

同六十八年二月十七日支配　俗名十二組　同六十九年二月十七日支配　俗名十二組

同七十年二月十七日支配　俗名十二組　同七十一年二月十七日支配　俗名十二組

同七十二年二月十七日支配　俗名十二組　同七十三年二月十七日支配　俗名十二組

同七十四年二月十七日支配　俗名十二組　同七十五年二月十七日支配　俗名十二組

同七十六年二月十七日支配　俗名十二組　同七十七年二月十七日支配　俗名十二組

同七十八年二月十七日支配　俗名十二組　同七十九年二月十七日支配　俗名十二組

同八十年二月十七日支配　俗名十二組　同八十一年二月十七日支配　俗名十二組

同八十二年二月十七日支配　俗名十二組　同八十三年二月十七日支配　俗名十二組

同八十四年二月十七日支配　俗名十二組　同八十五年二月十七日支配　俗名十二組

同八十六年二月十七日支配　俗名十二組　同八十七年二月十七日支配　俗名十二組

同八十八年二月十七日支配　俗名十二組　同八十九年二月十七日支配　俗名十二組

同九十年二月十七日支配　俗名十二組　同九十一年二月十七日支配　俗名十二組

同九十二年二月十七日支配　俗名十二組　同九十三年二月十七日支配　俗名十二組

同九十四年二月十七日支配　俗名十二組　同九十五年二月十七日支配　俗名十二組

同九十六年二月十七日支配　俗名十二組　同九十七年二月十七日支配　俗名十二組

同九十八年二月十七日支配　俗名十二組　同九十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百年二月十七日支配　俗名十二組　同百一年二月十七日支配　俗名十二組

同百二年二月十七日支配　俗名十二組　同百三年二月十七日支配　俗名十二組

同百四年二月十七日支配　俗名十二組　同百五年二月十七日支配　俗名十二組

同百六年二月十七日支配　俗名十二組　同百七年二月十七日支配　俗名十二組

同百八年二月十七日支配　俗名十二組　同百九年二月十七日支配　俗名十二組

同百十年二月十七日支配　俗名十二組　同百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百四十年二月十七日支配　俗名十二組　同百四十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百四十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百四十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百四十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百四十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百四十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百四十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百四十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百四十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百五十年二月十七日支配　俗名十二組　同百五十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百五十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百五十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百五十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百五十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百五十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百五十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百五十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百五十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百六十年二月十七日支配　俗名十二組　同百六十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百六十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百六十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百六十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百六十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百六十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百六十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百六十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百六十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百七十年二月十七日支配　俗名十二組　同百七十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百七十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百七十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百七十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百七十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百七十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百七十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百七十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百七十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百八十年二月十七日支配　俗名十二組　同百八十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百八十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百八十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百八十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百八十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百八十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百八十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百八十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百八十九年二月十七日支配　俗名十二組

同百九十年二月十七日支配　俗名十二組　同百九十一年二月十七日支配　俗名十二組

同百九十二年二月十七日支配　俗名十二組　同百九十三年二月十七日支配　俗名十二組

同百九十四年二月十七日支配　俗名十二組　同百九十五年二月十七日支配　俗名十二組

同百九十六年二月十七日支配　俗名十二組　同百九十七年二月十七日支配　俗名十二組

同百九十八年二月十七日支配　俗名十二組　同百九十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百年二月十七日支配　俗名十二組　同二百一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百四十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百四十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百四十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百四十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百四十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百五十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百五十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百五十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百五十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百五十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百六十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百六十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百六十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百六十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百六十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百七十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百七十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百七十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百七十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百七十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百八十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百八十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百八十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百八十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百八十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百九十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百九十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百九十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百九十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百九十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百年二月十七日支配　俗名十二組　同三百一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同四百年二月十七日支配　俗名十二組　同四百一年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三年二月十七日支配　俗名十二組

同四百四年二月十七日支配　俗名十二組　同四百五年二月十七日支配　俗名十二組

同四百六年二月十七日支配　俗名十二組　同四百七年二月十七日支配　俗名十二組

同四百八年二月十七日支配　俗名十二組　同四百九年二月十七日支配　俗名十二組

同四百十年二月十七日支配　俗名十二組　同四百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同四百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同四百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同四百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同四百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同四百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同四百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同四百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同四百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同四百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同四百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同四百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同四百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同四百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同四百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同四百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同四百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同四百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同四百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同四百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同四百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同五百年二月十七日支配　俗名十二組　同五百一年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三年二月十七日支配　俗名十二組

同五百四年二月十七日支配　俗名十二組　同五百五年二月十七日支配　俗名十二組

同五百六年二月十七日支配　俗名十二組　同五百七年二月十七日支配　俗名十二組

同五百八年二月十七日支配　俗名十二組　同五百九年二月十七日支配　俗名十二組

同五百十年二月十七日支配　俗名十二組　同五百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同五百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同五百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同五百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同五百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同五百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同五百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同五百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同五百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同五百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同五百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同五百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同五百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同五百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同五百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同五百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同五百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同五百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同五百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同五百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同五百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同六百年二月十七日支配　俗名十二組　同六百一年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三年二月十七日支配　俗名十二組

同六百四年二月十七日支配　俗名十二組　同六百五年二月十七日支配　俗名十二組

同六百六年二月十七日支配　俗名十二組　同六百七年二月十七日支配　俗名十二組

同六百八年二月十七日支配　俗名十二組　同六百九年二月十七日支配　俗名十二組

同六百十年二月十七日支配　俗名十二組　同六百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同六百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同六百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同六百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同六百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同六百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同六百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同六百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同六百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同六百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同六百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同六百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同六百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同六百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同六百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同六百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同六百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同六百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同六百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同六百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同六百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同七百年二月十七日支配　俗名十二組　同七百一年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三年二月十七日支配　俗名十二組

同七百四年二月十七日支配　俗名十二組　同七百五年二月十七日支配　俗名十二組

同七百六年二月十七日支配　俗名十二組　同七百七年二月十七日支配　俗名十二組

同七百八年二月十七日支配　俗名十二組　同七百九年二月十七日支配　俗名十二組

同七百十年二月十七日支配　俗名十二組　同七百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同七百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同七百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同七百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同七百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同七百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同七百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同七百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同七百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同七百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同七百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同七百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同七百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同七百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同七百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同七百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同七百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同七百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同七百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同七百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同七百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同八百年二月十七日支配　俗名十二組　同八百一年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三年二月十七日支配　俗名十二組

同八百四年二月十七日支配　俗名十二組　同八百五年二月十七日支配　俗名十二組

同八百六年二月十七日支配　俗名十二組　同八百七年二月十七日支配　俗名十二組

同八百八年二月十七日支配　俗名十二組　同八百九年二月十七日支配　俗名十二組

同八百十年二月十七日支配　俗名十二組　同八百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同八百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同八百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同八百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同八百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同八百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同八百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同八百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同八百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同八百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同八百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同八百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同八百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同八百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同八百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同八百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同八百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同八百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同八百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同八百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同八百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同九百年二月十七日支配　俗名十二組　同九百一年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三年二月十七日支配　俗名十二組

同九百四年二月十七日支配　俗名十二組　同九百五年二月十七日支配　俗名十二組

同九百六年二月十七日支配　俗名十二組　同九百七年二月十七日支配　俗名十二組

同九百八年二月十七日支配　俗名十二組　同九百九年二月十七日支配　俗名十二組

同九百十年二月十七日支配　俗名十二組　同九百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同九百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同九百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同九百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同九百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同九百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同九百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同九百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同九百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同九百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同九百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同九百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同九百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同九百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同九百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同九百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同九百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同九百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同九百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同九百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同九百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百年二月十七日支配　俗名十二組　同十百一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百四十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百四十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百四十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百四十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百四十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百四十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百五十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百五十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百五十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百五十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百五十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百五十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百六十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百六十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百六十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百六十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百六十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百六十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百七十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百七十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百七十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百七十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百七十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百七十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百八十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百八十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百八十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百八十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百八十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百八十九年二月十七日支配　俗名十二組

同十百九十年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九十一年二月十七日支配　俗名十二組

同十百九十二年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九十三年二月十七日支配　俗名十二組

同十百九十四年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九十五年二月十七日支配　俗名十二組

同十百九十六年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九十七年二月十七日支配　俗名十二組

同十百九十八年二月十七日支配　俗名十二組　同十百九十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百年二月十七日支配　俗名十二組　同二百一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十五年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十六年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十七年二月十七日支配　俗名十二組

同二百三十八年二月十七日支配　俗名十二組　同二百三十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百年二月十七日支配　俗名十二組　同三百一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十五年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十六年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十七年二月十七日支配　俗名十二組

同三百二十八年二月十七日支配　俗名十二組　同三百二十九年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十一年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十二年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十三年二月十七日支配　俗名十二組

同三百三十四年二月十七日支配　俗名十二組　同三百三十五年二月十七日支

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法多山改称

[illegible]紀獻之[illegible]

七月[illegible]

日　法皇院より奉勅世尼宇六冊を開基[illegible]

又百十五冊　法皇[illegible]進献せる月世百帝中多法指菊の花六[illegible]

帝ふて書異と令せる月九月六日芳[illegible]

雲院[illegible]

二百十九日[illegible]

[illegible]

[illegible]

十四日　文殿院教十三國に長芋を貢上するそれに法る可し十月十五日和泉河内新に密三組を置く

明十二年三月廿五日彩絹一疋出羽に絁二疋文殿院十月出雲濱長絹（去寛年募求せらるる）二疋

年壬十二月十八日二組減一疋の二組　後朝に消ぶ

療馬集一部　醫　文殿院に施薬寮を建つ

令せらるる　仍て令せらるる所の薬品三校を給ふ　光七年十二月五日の官符

令せらるる　仍て令せらるる所の薬品三校を給ふ　光七年十二月五日の官符

二年　孝謙　二年　二月　令せらるる　二年　二月　令せらるる　二年　二月　令せらるる

享保　十年二月廣瀬の孝示療法の出一部　醫

年　月　廣瀬の孝示療法の出一部　醫

出　孝示　廣瀬　孝示　廣瀬　孝示　廣瀬　孝示　廣瀬　孝示　廣瀬

十四日　小倉藩に藤牧門に六日小田孝吏に命じて多門院日記を書抄せしむ　十月八

日　藤井孫右衛門清人朱末孝獻上の鄭世子朱載堉の樂書を按究せしめらる

世八日　文庫に書籍目録改正の事に番頭に命ずる

義元年　林大学頭に命ずる　仍て分ける　仍て分ける　仍て分ける

享保　仍て分ける　享保　仍て分ける　享保　仍て分ける　享保　仍て分ける

聖年人正忠順　仍て分ける　仍て分ける　仍て分ける　仍て分ける

水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水

水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水

水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水　水

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

水害上達

[illegible]

享保

廿年正月明月記類聚補正[illegible]

[illegible]

享保廿年正月明月記類聚補正[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

の書籍目録冊数を員録かゝ可是延享
職中源氏系図を称し事る門世々日西丸に移後 大御所様と奉称門九月廿日水戸藩より
礼義典引用書を献せる門月廿日風間金集六十七冊林大学頭献上門十二月十二日諸
小十人山高左宮定紙宗源記先代記抜書横地氏家系図切数右八伯書の系図抜書合せ
を上下に出だす如き数にて振仮名付記抜書不分明右の上下を略用ひる一門より
手為所等絵姿例は若宮社殿へ生方の西方の
抜書に元抜書方絵図絵図宗家を振仮名を抜書させ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六月廿一日　祇園院御位　撰所院宮御位　偉遊仁
孔門十二月十五日琉球使来　撰所孔　宝延
宝延元年　二年三月廿九日後後園番西洋之白衣異類獲来
今朝長九尺三寸　横八尺分厚二尺
今朝長四寸　横四寸　儀式方員二尺
廿日　大猷院殿百年忌　於日光山法華堂
中殿　一日　撰所院殿　十三日　撰所院殿
撰所宮　雷火　宝延元年　二月廿日洛中大風雨大雷雨　一数十　和泉　落二条
撰所宮　雷火　宝延元年　二月廿日洛陽四方　紫山法　所撰　恵開　数十余　牛木
死　最春日の社　宝暦元年　十月廿三日　後元三二月廿九日　京都大地震　民家倒　死者
撰所孔　宝暦二年　十月廿九日　琉球使来
安信　泰邦　掛小路　鎮　於　五表測　景　拝　式　行　江戸天門方　渋川図書　渋川
右近　郎　男　上京　渋川　図書　左近　安井　算哲　基　方　和　算　法　天文　暦　法　功　出　仕　江戸
憲　廣　重　信　図書　元京元年十二月　勅　基　方　和　算　法　天文　暦　法　撰
速　左　近　郎　領　行　よ　り　勅　使　に　渋　川　図　書　元　京　元　年　十　二　月　勅　基　方　占　麻　呂　名　天　文　方　法　暦　法　撰
渋川　図書　元京　元　年　十　二　月　勅　使　下　江　戸　渋　川　家　人　勅　使　金　左　近　郎　宝暦　正

暦領行

年　十月　暦領行　宝暦五年　二月　日　安倍　朝　臣　泰　邦　朝　臣　泰　邦　朝　臣　泰　邦
左近　依　江戸　源　左近　郎　勅　使　金　左　近　郎　宝　暦　六　年　六　月　十　二　日　江　戸　天　文　方　渋　川　図　書　元　京　元　年　十　二　月　勅　使　下　江　戸　渋　川　図　書　元　京　元　年　十　二　月　勅　使　下　江　戸　渋　川　図　書　元　京　元　年　十　二　月　勅　使　下　江　戸
勅　使　今　年　より　迄　二　十　年　に　成　る　に　付　後　世　洪　水　月　七　月　朝　日　家　財　を　奪　ふ　事　鮮　し　中　国　寒
よ　国　に　助　力　金　銭　を　遣　す　年　より　三　十　年　の　内　金　三　万　両　宛　毎　年　十　二　月　奥　州　深　川　雪
崩　の　三　尺　余　に　成　る　廿　九　日　九　列　大　風　雨　雷　雨　破　損　宝　暦　六　年　二　月　初　日　本　海　大　火　二　月　廿　八　日　大
坂　大　火　三　月　中　江　戸　に　て　連　日　火　烈　風　吹　続　其　物　焼　一　日　七　月　晦　日　近　江　大　地　震　日　晴　十
百　上　方　大　風　雨　洪　水　九　月　日　山　列　宮　治　川　本　川　大　坂　出　洪　水　十　月　廿　二　日　伏
渋　川　家　より　出　火　深　川　後　に　焼　失　廿　三　日　書　山　より　出　火　麻　布　芝　迄　焼　失　宝　暦　七　年　七　月
十　日　東　海　道　奥　州　国　筋　洪　水　十　月　廿　日　紀　州　熊　山　に　霊　芝　生　ず　宮　殿　敷　十　六　日　六　孫　王　経
基　八　百　年　忌　に　依　る　江　戸　に　寄　附　有　之　渋　和　源　氏　の　家　万　石　以　上　日　下　其　志　賞　助　力　可
被　為　仰　付　宝　暦　八　年　九　月　廿　六　日　より　廿　九　日　中　迄　大　坂　毎　日　雷　鳴　電　降　日　月　伝　食　森　一
件　に　て　老　中　本　多　伯　耆　守　に　て　大　坂　に　て　出　役　に　て　犯　逼　塞　に　て　本　多　伯　耆　守　に　て　勅　定　に　て　大　坂　出　役

惇

[illegible]

宝暦九年閏十月十日より十二日まで加茂社[illegible]

[illegible]

宝暦十年二月日[illegible]

[illegible]

宝暦十一年六月十二日於二条[illegible]

[illegible]

[illegible]

◯

浚明院殿御世　家治公御在世　惇信院殿は[illegible]

中納言通條女[illegible]

[illegible]

[illegible]

年十二月十日御[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

流行
疫病

又曰
疫病

三日又大風九月朔日於東叡山流行馬疫
同日京畿諸国疫上聚之所々行之見了
九月朔日於東叡山流行馬疫
同日京畿諸国疫上聚之所々行之見了
享保医中古今の説を考へ
対方の古今の説を考へ
元文三年流行の式と
仕方と元文の式と
所々の流行と
流行する所の中央
東叡山の流行
東叡山の流行
東叡山の流行

世日山陵大武口仕亜 [illegible] 要害場而攻撃 [illegible] 情様 [illegible] 男八百八拾溺み [illegible] 十四日大坂多根洲新地大火 [illegible] 出 [illegible] 三百より [illegible] 現 [illegible] 水系大坂江及諸国風雨激浪 [illegible] 両宮遷宮 [illegible] 中納言人十四人漂着 [illegible] 及諸国池川井水悪沼 [illegible] 尾州名古屋大火 [illegible] 現 [illegible]

[illegible] 明和 [illegible] 年 [illegible] 月 [illegible] 明和 七年 [illegible] 月 [illegible] 明和 八年 [illegible] 月 [illegible] 大火 [illegible] 諸国老若男女 [illegible] 相州大山辺 [illegible] 世震 [illegible] 月 [illegible] 後桃園院 [illegible] 元年 [illegible] 盤橋 [illegible] 十六年 [illegible] 十七年 [illegible] 一 [illegible] 金 [illegible] 一 [illegible] 金 [illegible] 一 [illegible] 金

[illegible]

一百余人 [illegible] 今七度 一 [illegible] 今五度 一 [illegible] 今二度 一 [illegible] 今一度 一 [illegible] 今一度

月ヒ月より五月迄流行疫病流行ヒ六月廿一日今度ハ摂ハ門[illegible]焼失の処ハ[illegible]

打続き他ヒ[illegible]大火出来ヒ[illegible]ハ[illegible]用[illegible]ハ[illegible]

大風及洪水人多死ヒ[illegible]朝日[illegible]七月三日紀[illegible]

[illegible] 民家破壊人多死ヒ廿日東[illegible]

大風及ヒ九月菊[illegible]浪[illegible]判[illegible]ハ[illegible]十月[illegible]日上[illegible]

上[illegible] 安永二年五月十一日[illegible]宮[illegible]

[illegible]ハ[illegible]洪水ヒ[illegible]月八日より十二日迄大風及洪水ヒ[illegible]

[illegible]月十月[illegible]月一揆[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

漂流民ノ事 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

大隅櫻島焼

廿六日京都大火武家より金河内より百山雷雨降同廿九日大隅国櫻島南方山焼出焼
の中霧光耀て法人自を驚恐砂流出海辺方小数丸霧の如く降ちり田畑
家屋数死亡の者二万六千余人生存二千余人同十月二日三日比紀伊熊野大流出四尾州伊勢
関東辺及江戸小原海辺雷の如く光物数度同十月中旬小雨大雨減七月十月七
日日光出後雷鳴 正徳元 正徳元年 正徳元年起源同廿日光出後雷鳴 正徳元年
年大京変 防長 酒井右京亮 防長 二十日江戸伊豆宮松平安房守 防長 三十 江戸長谷寺松平大隅守
防長 二十 法華経松平出羽守 防長 十六 酒井雅楽 防長 十六 江戸宮松平安房守 防長 十六 川筋物同十一月九日 法桃園院殿
要永 九年 二月気候大変日々時雨降同廿三日大坂大火同廿日大宮長谷寺焼
酒井忠道 法月 此月 紅毛 安房 国朝 奥羽 南部 奥村 平兵衛 忠 村 逢の 伊 宮 元 別 大 船 南 部 日 元
三十 弘 酒 井 雅 楽 頭 忠 道 の 使 船 の 長 サ 三 百 十 間 人 数 七 十 八 人 船 を 焼 殺 獲 同 六 月 二 日 京 大 坂 大 雷 鳴 同 十 日 江 戸 ま う 毎 日 時 雨 降
家作初冬の如く 寒 同廿六日より 江戸洪水同廿九日 此 洪 水 江 戸 大 坂 江
戸 西 の 丸 金 浪 日 宮 運 足 降 天 る 形 と 風 吹 雨 数 絶 同 十 月 十 六 日 京 都 大

雷鳴同十二月廿日 去上皇 御位 実 京 度 天 典 仁 「天明 元年 正月十二日 後 元 」 四月八日江戸 大火
同二月廿日六日 桜 御位 御位 祝 義 位 雅子 法 親 王 同 廿 日 江 戸 大 火
同 位 義 位 代 位 三 位 位 代 国 を 掌 色 の 同 廿 日 二 百 年 前 大 雲 院 殿 平 信 公 二 百 年
役 者 前 日 京 内 位 年 ま で 三 月 下 旬 ま で 天門 殿 引 留
云 京 を 断 大 雲 院 法 中 牧 行 同 七 月 二 日 義 位 大 火 同 廿 日 京 都 近 国
大 風 及 大 雨 雷 鳴 同 廿 日 風 雨 激 同 十 月 廿 三 日 大 坂 大 火 天 明 二 年 二 月 廿 日 河 渡 流
城 下 大 火 同 二 月 二 日 大 義 同 六 月 七 日 岩 安 神 服 者 紀 伊 大 洪 云 法 寺 焼 亡 此 縁 組
江 伊 豆 国 安 中 納 言 家 義 の 長 女 天 明 七 年 十 二 月 廿 七 日 入 輿 同 廿 日 加 別 食 大 火 同 廿 月
実 政 六 位 二 月 自 通 達 実 恭 光 後 光 紀 伊 宮 殿 光 宮 殿 七 年 ま
浅 草 江 戸 表 裏 屋 焼 失 天 明 元 年 正 月 廿 日 江 戸 大 地 震 同 廿 日 江 戸 大 洪 水 同 廿 日 洪 水 同 廿 日 洪 水 江 戸 大 風 洪 水 同
六 月 十 四 日 京 加 茂 川 洪 水 同 七 月 十 七 日 丑 刻 江 戸 大 地 震 同 十 五 日 文 大 地 震 民 家 被 倒 堅 物 五 十 人
田 未 深 中 石 垣 崩 壊 下 民 家 倒 壊 同 廿 日 江 戸 洪 水 同 廿 日 高 潮 堅 物 生 昼 月 下 弦 国 雲 降 同 八 月 廿 日 江 戸 海 辺 浪 浪
浜 川 例 倒 壊 候 者 数 百 人 未 社 未 復 壊 本 社 斗 洪 門 前 系 屋 被 倒 引 流 る 人 人 多 溺 死 同 十 二 月 廿 六 日 東 照 宮 誕 生 天 文 十 一 年 正 月 十 二 月 廿 六 日 浄 誕 生 文

浅間焼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

江戸洪水

大紀錄 天明六年正月朝日殿上刻日食皆既日食宝殿家武公
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]病ハ是歟ハ宗清ハ和六年二月廿日上総　有德院殿　ハ廟　ハ是歟ハ宗清ハ和八年
八月廿日薨去ハ九月十日ハ出棺東叡山ハ葬送　心観院殿ト号称ハ廿日ハ終後二位
天明三年終後一位

最樹院殿
号ハ
界信

○ 大御所様御世　家斉公御実母一橋大納言治済卿

一橋治済中納言宗尹卿ハ享保十年ハ生ハ安永ハ宝暦元年十月六日生ハ母細
川民部少輔宗孝ハ女因安房ハ生ハ寄月廿七日ハ終後ハ廿九日為ハ猶子ハ十二年十月廿日初ハ四位ハ
十二月朔日元服ハ（字ハ初ハ称徳川民部ハ治済ハ明和元年十月十日叙従二位任権中納
言ハ十二月廿一日ハ遷任ハ従二年十月廿日ハ兼官ハ任参議ハ十二月廿日ハ従三位ハ
従四位ハ任権中納言ハ叙従二位任大納言ハ安永ハ三年二月廿八日ハ任権中納言ハ叙従二位任大納言ハ
同ハ安永ハ三年ハ任ハ従一位ハ八年八月七日准大臣ハ儀同ハ十年二月廿日
薨去ハ最樹院殿ハ葬送ハ宝歌山ハ十一年ハ正ハ嫡男ハ豊千代ハ家斉ハ内務ハ正利ハ女ハ
月廿日ハ徳川家ハ十二月二月十日ハ終大臣ハ
葬送
雲院　安永　二年十月廿日一橋銭ハ於ハ誕生ハ豊千代殿ト称　安永　三年三月十三日山王ハ
文永ハ十月廿七日ハ襲雲　安永　又年七月十日ハ従四位　安永　六年十二月十日ハ叙従二位　安永　七年

二月十日ハ疱瘡　安永　八年　月三日ハ入学ハ手習始　天明　元年　五月十八日
後明院様ハ薨去ハ　ハ　美濃様ハ年称ハ日ハ本丸ハ遷ハ西丸ハ移徙ハ七月
朔日初ハ出表ハ出御　ハ同月九ハ十二月二日ハ御法遷　家斉公　天明　二年ハ月三日ハ元服ハ従二位
権大納言ハ加冠ハ井伊掃部頭直幸　ハ　ハ　ハ

十月、
右渡

天明

七年正月十七日向後以年號被仰出旨

一件

大坂江戸町
博記打潰

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

注 [illegible]

仙出 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

四条畷出役

九日より二日目に二月廿一日に高槻城に為出役
昨日帰陣
洛西三条堀浪六十貫目物借の家焼の所方へ金子を借ふ
四条畷に陣を張り
七日法華宗と浪人
出役
成の刻光物浪来小西南の方に光の如く東の方へ
和泉守二万六百俵足軽
七日法華宗浪人
寄合席
の儀
出役
元年
二月廿二日に
二月廿三日に
二月廿三日に
二月廿三

方石已上四歳

約と称し一はいくらと熟しては礼義を正しく奉り格式分限を弁し
ふ分を立て秘蔵の分限を弁ずるものは近頃一統に崩れ
ぬ不法の儲金不仁の利金を編出し武士の分限を弁ずる者
無拠不得已の義実に一統よりは公儀仕置の義理を以て報しむる
所国家の為にして儲金は国家の為に出す義理を以て報しむる
ものは仕置の義理を以て報しむる者なり 仕出しの利を以て
武士の分限を弁ずる者なり 仕出しの利を以て武士の分限を弁ずる
者なり 仕出しの利を以て武士の分限を弁ずる者なり
百石以上の面々武士の面々武士の面々武士の面々武士の面々
嘉永五年の名国策は作出方石高の割を以て武士の分限を弁ずる者なり
遠国奉行の職は作出方石高の割を以て武士の分限を弁ずる者なり
諸藩の振合は作出方石高の割を以て武士の分限を弁ずる者なり
仕出方石高の割を以て武士の分限を弁ずる者なり
仕出方石高の割を以て武士の分限を弁ずる者なり
仕

のつゆ分貸てもなき窓ゆよりの名をかりて
より仲家のつゆ二乃を分ける座高潮家とうへきの地をとせる和の八今六百十一年　蒙古六年ケイツル
イエヤスこれをうけ又の八今六百十六年　元和二年　初の市法を建めくるにテタヾ公方行ひ沒ぬ和蘭
人のつゆあのてきたんりゝく　親征をうるの御書くてのみて波乃杜
尾本人のあるを蒙くる　合国　昌はいとき長崎を以て和蘭
をあんル我へのようにさるを迷　放逐　ゆ　番人し老　ゆ　人
官其の官有は其盟をあつて彼ゆきるを和に涙細のるをさえ
かゝるき接客を設て宮ゆ因係又に彼人よりるれる此いくたくも唄ゆ彼ら泊るるを修て方ゆ作列
のの新都ゆ今と考へきこれ弾丸ゆ用あるきこのの
あとあゝゝめん迷彼ゆあるゝてゆ年八十万コロこの銀港の名文録あて大約八分ゆ商船ゆ文千万
るていにゆ同井ゆの貨物を賣をいるゝ但かくるくてゆるくの
らもあるとゆるんゆ宮ゆ盛ゆるゝ　和蘭ゆ一年ゆ入所の行事の宮のゆるゆ日本ゆそ八僅ゆ
一七日のるゆして出しつゝ　ゆ此の仙業跡絹本番ゆひ接ゆこの貨業許ゆの貨物のゆきゆ後要
のゆ又ゆ業綱のゆるゆるゆ　ゆ　ゆ出ゆるゆ倍ゆ利亜の二国抵和平ゆ日和して要ゆ芸
○清ゆ利亜ゆ始ゆて以絶渡国海ゆ三度の徐中の徐中のるゆ形ゆゆ彼ゆ杜尾本人も彼ゆ国地ゆ
いゆゆゝ渡して出ゆゆ新んゆ今の和蘭人のゆくゆ　ゆ　ゆ　ゆ彼本杜尾本人アンケリヤゆ
人ゆ　○寛永十八年　蒙ゆ三十三年ゆるゆ平ゆ和蘭ゆ
元亀二年三月　把ゆ蒙ゆ長崎の内町六町を攻て蒙ゆ
十五年　元宝　宝ゆ年ゆ月十一日　ゆ和ゆ
代地ゆして浦ゆて　一出ゆ書て蒙ゆ
効て長崎して高麗を蒙ゆ　ゆ後流清と定ゆ
を蒙ゆ高麗町大村町外浦町平戸町文知町接渡南町六町を建ゆ後世の町撫絵時今
町ゆ待町内丁町出ゆ失ゆ二十余年を経て文絵の絵又二十三町出ゆ年ゆ

唐船来貢

蒙人密貿

長崎奉行

後ゆ長崎ゆ多ゆ高麗ゆ長崎ゆ来ゆ第七町田ゆ家ゆ
を水山本ゆ長ゆ多ゆ長ゆ内ゆ高麗ゆ来ゆ高麗ゆ後ゆ長町田ゆ人ゆ町ゆ年ゆ
和ゆ和ゆ以ゆ門ゆ町ゆと定ゆ長ゆ四十ゆ年ゆ長ゆ長ゆ長ゆ長ゆ
ゆ数年ゆ長崎ゆ地ゆ南蛮ゆ船ゆ来ゆ長ゆ切支丹ゆ法ゆ
ゆ一ゆ法ゆ定ゆ定ゆ厳ゆ和ゆ人ゆ長ゆ長ゆ長ゆ長ゆ
亜寺沢志摩守ゆ長崎ゆ奉ゆ
まて廣孝ゆ年ゆ行ゆ
和元年　長谷川権六ゆ代ゆ蒙ゆ年ゆ月ゆ八年ゆ小笠原ゆ代ゆ
蒙ゆ代ゆ月十年ゆ我又右衛ゆ代ゆ蒙ゆ三年ゆ
蒙ゆ長ゆ長ゆ長ゆ人ゆ長ゆ隔年ゆ長ゆ長ゆ
夫と蒙ゆ代蒙ゆ村山安ゆ長ゆ代ゆ元和二年ゆ来ゆ年ゆ
年ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
蒙ゆ十八年ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
月ゆ蒙ゆ蒙ゆ二年ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
六十万ゆ目ゆ減　毎年ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
ゆ永ゆ年中ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
天西ゆ長ゆ中ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
列の内清ゆの河ゆ根筑前の蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
蒙ゆ蒙ゆ九年ゆ蒙ゆて庵ゆ蒙ゆの人ゆ出ゆ蒙ゆ蒙ゆ
永漳ゆの三寺を建ゆ寛永十二年ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ
蒙ゆ禁ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙ゆ蒙

[illegible]山文集松栄紀事を引て曰　神祖嘗謂[illegible]川薩摩曰曩時日本
与明有勅合符天文以来絶無[illegible]今清[illegible]
明国性如[illegible]薩摩招之[illegible]明室之[illegible]
作用本多正純薩摩出送絶建[illegible]督[illegible]子[illegible]
明皇朝治平朝鮮琉球[illegible]雖安南交趾[illegible]
国莫不止出[illegible]宝明室亦宜以勅合符[illegible]
[illegible]皇朝[illegible]琉球[illegible]
[illegible]

[illegible]造

六月十四日寒冷小普請[illegible]
日大風雨洪水[illegible]
江戸日露像[illegible]
兼仁[illegible]
製の[illegible]
新築[illegible]
[illegible]
[illegible]
琉球使[illegible]

[illegible]造

[illegible]
[illegible]
[illegible]

医学館設置

漢水門書国書の浄定所名称二三度変革ありしが文化四年に漢学の内より一第を取出る組町家の子弟を選ばれ教授を以て教授と称す

石龍芸高冬に出仕第渡辺の内より一第を取出る組町家の子弟を選ばれ教授を以て教授と称す

医学館設置

十月十三日臺国龍立中義本みづく死去の跡人に子蔵に出仕月代に

元徳以来続て医を教ずせ一部今年を期し公義の医学館を安元元年に永寿院

永寿院と称して医を教ずせ一部今年を期し公義の医学館を安元元年に永寿院

町医の教示を此に今年より学館費用として毎年金弐百両を以て

組町医の教示を此に今年より学館費用として毎年金弐百両を以て

医学館費用として毎年金弐百両を以て

医学館費用として毎年金弐百両を以て

医

文化八年分の書に以月紙前出清原氏松平宗対山繼出て湯浦流人多死國中震動出奈出
明治六月十六日林子平 松平陸奥守家臣林子平 林子名信門原貧藝述海國平談及三國通覽の書小復の勢振
ル 御付同六月十八日支刻江戸出掛南より東小る花火出望の和一ヶ出國中を
照ス 同七月十日美君様江誕生 藩員松平摂氏於万方参拝 御代様七月十九日 御誕
様江出十一月初て江表出府同十五日江出発同月廿日出発同月廿年三月十一日江出発
普請出来日御十日御出 同七月廿九日番所迎大史多出千石以下番所迎の旗本以家人小姓繼の面々
報信令ル 御付七月廿一日已の刻森平治門内不残小川町へ出て望和清出ル小川町より出発赤坂御屋敷
敷江帰 同月廿三日寄合江番所小普請義熱二男三男花の者 御同見以下の者
同月於聖堂学問所初て学問江成有之 江番小学を以て一科より成る出
之通用を学ぶ江同月廿八日一科より成る出
ろ〻〻成一ヶ月江褒賞取 板江成の日限毎日の定日限て生日初め江終江同月廿五日
諸国按摩者廃江出就の出同行出の内
同一人〻出る抜て出奥の出同行出の内
江儒者医者廃し江出就の出同行出の内
二級医者廃し江出就の出同行出の内
江儒者医者廃し江出就の出同行出の内
二級医者廃し江出就の出同行出の内

江戸の者小銀を以て上中下の科紙を出し上中下の科紙を出し
科紙出有之出て紙江出ル年月の書一ヶ今より見あり江戸一日以上江庭を於て布衣以上の
人及寄合以下番所小普請先浮の面々馬 上覧 但江戸出発の中出発の面々
上覧江御出発 安政元年二
月十日中山第天納言 祝 正親町第右衛門 正親町三月七日当年江戸内急
上覧て太政官を以て江戸出発の中出発の面々
一年紀年ふ行面白出発小銀中出発の面々
中国相列浦賀迎巡見 安政元年 松平越中守 高
講究所所建 坂部越後守 和学講究所 和学講究所
接ル 和学講究所 和学講究所
二面坪 和学講究所 和学講究所
江戸 和学講究所 和学講究所

[illegible]

八月晦日　御成

[illegible]

霖雨近國洪水　寛政六年二月十日江戸大火　[illegible]

[illegible]

[illegible]

十一年六月十六日[illegible]十二月十七日中納言[illegible]十二月
十七日[illegible]三年[illegible]二月[illegible]
[illegible]国[illegible]事有[illegible]門[illegible]
[illegible]巻[illegible]集[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

オロシヤ魯西亞船入津

[illegible]文化二年九月十四日
[illegible]二月江戸原藩用[illegible]日毒[illegible]
[illegible]文化元年六月十日[illegible]
[illegible]文政元年[illegible]
[illegible]十二月九日[illegible]
[illegible]十日再[illegible]
[illegible]年[illegible]月十日[illegible]
[illegible]文化元年二月十二日三百八[illegible]
[illegible]月七日[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]年[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]
[illegible]月[illegible]日[illegible]

通商を乞ふ許諾の証書を受せ帆せむとやさんりかん 文化 二年六月
日魯西亜の使レサノフトを宿舎ふめ入る 宿舎そうしゃ 蕃 [illegible] 館 [illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

の某が船に乗りたりとても奪ひ取る事なし又清陽呉国船出帆の時の花火矢を敵
て去る魯西亜始て出港する水師提督ゴロウニンを以て某が船より出帆の時花火矢を
放つるの法なからざるを命じ出時は国旗を掲げ阿蘭陀船の如く
故あるを以て花火矢を放つるを禁じ阿蘭陀船の如く
船あるの律を設けも一年ふ発して去しふ洋中ふ
敵て余令を持さ浪として砲撃ふ与ふ炮を放て去る
西亜必ず有へし生時某が彼の国を止めるあるとの報を激発して不言敵を
してレサノフト有司を就てやとの阿蘭陀に勅命を出ふ
浦賀ふ来ふ夫子統を待て一ヶ八百余年間度有司
を放ひ国を免さまし都城帆ふ出港を禁ふ出せるを
ふ中ん其不の中さるとくく阿蘭陀の卑船の出入
無実何ものあるん後て相ふ出せ阿蘭陀の卑船の出入
とせや今清国ふ来ふ出港を禁ふ出せる迚城帆ふ出港を
とも礼を以て出とのせき阿蘭陀と出ふ卑船の出入
敵へしと有司武部を以て示さて出港せ
の国を来重せるを怪ふ出ず炮を発し喫驚め勅ふ徳を納て去るを曰く毎
ノフト後ず怪ふ利く他て都船を不必後魯西亜
後ず我ふ利ふ他ふ都船を不必後魯西亜

二世女王カタルイ真国を統業オランダ・フランス・ヱケレス・イタリヤ・イスパニヤ・トイツ等
の法取を為国とし今女王アレキサンドルふ立るまて千八百巳年歐羅巴列国を保てう正邦西洋の号

国を為の帝位とふ以ペトルブルカの地を以て都ふ
和三百年ふ初後位を正安二年モスカウふ移
組ロリキよう十六代タニイルヤレキサンドロイチ後位
カウよう今の教ヘルトフルカ帝位ふ
たる。今女王アレキサンドルとの子孝
の条ふ今の王の名オレキサンタラバイトロイチ
百巳年と云門番ふ来年彼密年暦ふ八百二年と
帆の年ふ後巳年ふ三年の間あり按ふ彼年号
キよう三ふ百巳年の号ふ彼年号
ロリキ都孝謙帝勝宝六甲子年一統して
室六年より享和三年ふ至る迄暦を推ふ一ヶ
十六月津軽藩中ふ寄船奥及津軽
十八日松平右衛門佐斉邸
迄出精骨折為ふ加増ふ
後年彼国ふ渡ふ及迄く伝使翻訳と
宅後浪ふ家来
情中ふ
八まつふく

[illegible]

[illegible]

[illegible]

琉球人来朝

薩翰譜編

因伊豆　琉今已上刻大慶間　三方採　大納言採　今日以略式物紙中山王之白銀五百枚琉球谷山王之白銀五百枚琉球人牧帝之以和漢之文字琉球人牧帝之白銀二百枚楽人以彼二百枚楽人以彼二百枚楽人以彼

蝦夷騒動

[illegible]ヨリ泊進アリシ旨文政元年十七日ヨリ米国沿海州の沖合ゆゑ[illegible]
[illegible]辺の沖へ[illegible]
[illegible]
[illegible]

参政蝦夷巡察

ヨウケンと称道古沢後陸奥ひてナヨロと云山奥より魯西亜大船を放ち不云ふ様せしかふ計て
クナシリノ方ツルヘヲ山二日は迫きしはなれと実に物を不繋き猶捜して迯
去しと云魯西亜人和蕃和を放ち兵器を奪ひ去ぬと云る或ハ彼地土民の人々より親族を已
に殺れる筒銃おとの流と云て尚ほ云罵る中間は為て伊豆徒行者家を新に松前の古清蔵
せる也真弥近国の遠浦海岸を護のみを以て出月六日参政婚田榜津守殿勘定
を以て蝦夷巡察を命せらる也真弥中川孤隼人目付中川孤隼人目付を以命じ帝京普請役小菅
弦右衛門正寛村上大学義雄を以副らるかゝる江戸の所く蝦夷を業とせる人家毎に
番員を置きこれを警衛く家に彩毎に陣羽織を着せらるゝ奇の中何とかく地
さらに変なるを不許かゝぬも安りゝぬ也地なるを或ハ蝦夷の辺境なる南部津軽の兵魯
西亜人と戦を接し来る傷殺を決せ或ハ夷狄の兵和数百艘統軍に厚後に寒を
為て アメリカ船一艘長崎より本国へ帰すとて沖合を奥羽の運漕を遮りて松前に一孤
船をとゝめ オロシヤの軍船をとゝめ さらにきし 為りて接ゐく其行ひ方を怖して病を生し人々を安せ或ハ勇と激とも云或ハ松前
の家老ハ国侯の某ハ魯西亜と亦縁の因を結ひ妻妾を率て彼地に出奔しを列

大

て撃しむとも云ふ或ハ竹橋門内の右松風ありして折柳の門内の社造営年
あらさるを不解ゝ又板橋巣鴨の百姓諜報に曰ふ 鎌倉右大将の時代の
明月を貫く又和番酒菊を琴星堂に川を越て清す 同八月十九日深川富ヶ岡八幡宮の
祭礼練物の病群集し永代橋落て圧死多し 百餘人の
人を数ひて劇話と云ふ云ふ家を焼て云魯西亜国を合今後代ハ
正廉国家小信不準る密改正年我国漂流の民を送て蝦夷の地子モロとの不審
なる是魯西亜我国と為る始こゝ彼国漂流人を送るゝ為ハ紀毛人を託し七月
接を求て不審の国と為る若い必故ゝ〳〵 既ハ文化元年再長崎に来船し
通信商を信ハ実ハ是を信ハ也と家国を親ゝ為ハ人今真の許されを
ゝ蝦夷の辺境東西を寇と漸一弱の為ハ海を知ゝ〳〵 徒ゝ異狄
我辺境を侵ものの数十度吏ハ中ハ〳〵安正年の寇患ハ〳〵〳〳〳

事あらんを間天変地妖を示すの年をかさねぬ嫌禽の牧の小条附宗不測の皇室
あて利を貪り一貫を害き力を防禦を用ひて兵を練るの数年敵あるを待て挑戦ふ
徒たるも〻級積を孝ふ以て伊勢太湾水の神威を畏て元寇十万一時に海底に
沈こと幸うして患を深くふるまらく人うをんるふ事ハなるのふ仰て士民の活弱い
甚のゝ況神威し亦必敬を雖し彼国の私を海城と云ふ郷金国を揚らう江戸素か
海岸の地水路万里不毎〻ぬ是ハ徒防を〻へらうをあとにあるふ但せいひ絶きて彼
しかを所くめて豆豆の雑説ひさらふあてし彼地の噂歌なる変化事行而ようの所ふ
鎖うう又武家八六月十二日門出自出対のて老説の安あるを示さる

地震地兵発

かて地震地うの
豊西亜人エトロ
フ彼を乳物ロウ人カと云ふ人引元を〻ようれ松茸の内面の方リイ〻ろと云ふ人ハ万寿丸
和を高船一艘を焼撃し彼る舟一艘を奪ひ高ふ人ハ和歌の宿船を奪せ
船を持し〻めて生船を逃ふ人ハ和歌の宿船を奪せ
たる船をかり一向を南毒をすけるの〻ひるの行されるふ捕を外年大家を率て東面二隻を捕者
多井の船を〻めさんとへかるうろうの国ふ年の正月ハ使安小黄物を正家村上賢拘義雄ハ小
船山長伝十郎示流西北ハ出院安黄目長ふろ 彼を文て伊豆国沖の人数を率て城夷を船し
小黄村上の船数松茸ふ船り山長ハ徐津の人数を指揮して東北エトロフ彼カラフトを彼ふ
船の人数を指揮して西北カラフトを彼ふ
豊西亜船すを彼文を伝を〻ハ捕ひんと各彼

地を彼を絶るの処を年ふを年ふを〻を〻を〻を〻して年の秋を彼を殺して江戸を海
夷ふ三年の名変を言伝ふ〻ハ年月文化八年五月廿一日ふリイシクの内泊の海ノラ
トのセレヘコタンの〻を〻を絶所を〻のふ処豊西亜船一艘を組六十餘人〻豊を〻リコルと云船を
コセ〻ウエンモフルとのふ以船を奪分て〻ヤナ船と云ふ〻を〻を〻を〻を〻を〻を〻を漂流の神ふく長崎〻人
上陸して〻内を人〻捕夷の内ラソロ人を〻ふ蔵水を〻ふ〻を〻ふ〻を〻を〻を〻を〻を〻を〻を

大船
蒸湯
海岸
見名

松前
[illegible]

[illegible]
平伊豆守殿之内ヨリ後之内ヨリ三百井上左兵衛殿豆州下田浦ヘ安房上総海岸ヘ人ヲ遣シ被申候

余 文化七年二月ヨリ六百人ヲ以テ松平越中守殿ヘ安房上総海岸ヘ大船蒸湯不見届ヲ以テ松平金三郎殿ヘ

[illegible]
十月十四日岸船蒸生 [illegible] 文化八年七月ヨリ七日迄云[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
十二月十四日ヨリ[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]

[illegible]

人の告げ[illegible]
子孫命あて療治しる不合の事[illegible]
和海山[illegible]病[illegible]
紀毛人[illegible]
義母[illegible]
[illegible]
[illegible]

清水

[illegible]

造営成り七月十日文姫

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朝鮮来聘

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

天保日記

二割減

十月六日天保日記に曰く拝借の儀願い奉り候に付き組頭尾張宗左衛門（巻物を借の出に出る）

[illegible]

十日の十二日に出て芝増上寺

文殊院百年忌に出る法事に御料理

月番小笠原大隅守忠徳に勅使拝領

十二月廿又日宗対馬守義功朝鮮使に関係年賦二百枚

時振三千両方朱国[illegible]代[illegible]十七月[illegible]日[illegible]

年の拝借金三万両[illegible]

向に[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[朱書]「三百四巻」

仲中納言八年八月廿五日ハ[illegible]
[illegible]
伊豆守ハ[illegible]中、[illegible]病[illegible]業興ヲ退去[illegible]
[illegible]ヲ[illegible]ヨリ　有章院殿百回忌ハ法[illegible]
[illegible]ハ[illegible]日ハ[illegible]ヲ[illegible]
日ハ法中[illegible]ハ[illegible]ヲ[illegible]日ハ[illegible]月七日　東照宮二百回忌ハ[illegible]ハ[illegible]
万歳ノ[illegible]ハ[illegible]今日ハ[illegible]月十一日ハ中[illegible]
[illegible]月十六日結[illegible]月十七日ハ[illegible]日ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]
[illegible]ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

布施淡路の国役人を惣目付に任ずる

大納言様に申上げ、公方様に今日於御前の男目見の門次に対面致し、上刻に男出仕、大納言様出御、尾張殿・水戸殿・御三家・御流儀・大名・諸代・譜代・外様の男目見、上覧の儀、奉行・寺社奉行・大目付・目付・番頭・小姓・小納戸・御側衆・御小姓・大番・書院番・小十人・新番・小普請・御徒目付・御小人目付・御徒・小人・中間・足軽・鉄砲・弓・槍・長柄・馬・駕籠・乗物・長持・箱・行列・道具・家来・足軽・中間・小者・人足

中納言殿水戸宰相殿水戸中將殿に對面早て漢籍和歌大納言山科前大納言中院大納言櫻井中納言東園中納言殿中納言東園中納言殿庭田中納言に對面

大納言掃部大將に兼任右近衛權中將に轉任

同孫稚の間に至る西面に一間

次間の間に一間

中殿へ出御堂上の諸方小戸中將殿

徳川宰相殿今日の饗宴に入御

大納言掃部大將に宣旨

料理に今日三度より折一合ゝ方齊二十方ゝ

四方に折一合ゝ方齊十方ゝ

四方に殿義四方に三家方殿大名方に

公方掃部將軍

水戸伊中將殿の三部方

公方掃部

水戸伊中將殿の三部方

公方掃部

水戸伊中將殿の三部方

公方掃部

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙五 高橋

文政

三年正月十五日一揆穏ヶ敷七十歳ヶ稀の百姓ヶ伊勢ヶ後世ヶ徒ヶ
二月廿日服部中務大輔安董朝鮮国ヶ用垂ヶ宗対馬ヶ政令摸事補佐為勤労

天保ヶ月廿三日中納言殿ヶ御逝去八月廿二日ヶ叙位宣下
二位大納言ヶ月十年二月廿六日遠江守深保殿薬尾殿名古屋建仲ヶ月十二日ヶ家敬保殿ヶ
大地震ヶ月十六日ヶ叙位宣下ヶ御所ヶ御修復ヶ用ヶ
十組ヶ改元ヶ
日近年米價ヶ遠打続ヶ義米元の米ヶ御
切米ヶ御料共ヶ金銀の分百俵ヶ分ヶ紙屋ヶ
ヶ

文政

三年正月十五日一揆穏ヶ敷七十歳ヶ稀の百姓ヶ伊勢ヶ後世ヶ徒ヶ
二月廿日服部中務大輔安董朝鮮国ヶ用垂ヶ宗対馬ヶ政令摸事補佐為勤労

彩浪次郎

時疫ヶ流行ヶ月十七日ヶ尚今皇子御誕生ヶ
世ヶ月ヶ月十七日ヶ紀伊国ヶ
紀ヶ
洪水ヶ
ヶ月十八日ヶ新潟ヶ
ヶ
ヶ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]武州熊谷阿波殿九戸奥州白川石巻和賀仙台会津[illegible]
[illegible]て松平外記相馬三万切数二万石[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

十年二月廿日從一位儀門三司源法滅云覺御壽[illegible]七十七号[illegible]院[illegible]日三月二日後京都橋[illegible]の叡慮を以[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

五人扶持備可申付

[illegible]

[illegible]

[illegible]

明治四年辛未初春求之

松下観齋處士三三郎漢英直

松下英直